

2022(令和 4)年度 事業報告書

(2022(令和 4)年 4 月 1 日から 2023(令和 5)年 3 月 31 日まで)

学校法人 松蔭女子学院

目次

はじめに

理事長、学長、校長メッセージ	1
I 法人の概要	
1. 法人の名称、主たる事務所の所在地	4
2. 法人設置の目的、建学の精神	4
3. 学校法人の沿革	4
4. 設置する学校、学部学科、入学定員等	7
5. 学部学生数の状況	8
6. 収容定員充足率	8
7. 役員（理事・監事）に関する事項	8
8. 評議員に関する事項	9
9. 教職員に関する事項	10
10. 校地・校舎等面積	10
II 事業の概要	
1. 法人	11
2. 中学校・高等学校	13
・中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	25
3. 大学	26
・中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	46
III 財務の状況	
1. 決算の概要	50
(1) 貸借対照表関係	50
(2) 資金収支計算書関係	51
(3) 事業活動収支計算書関係	53
(4) 有価証券の状況	54
(5) 借入金の状況	54
(6) 学校債の状況	54
(7) 寄付金の状況	55
(8) 補助金の状況	55
(9) 収益事業の状況	55
(10) 関連当事者との取引の状況	55
(11) 学校法人間財務取引の状況	55
2. 経営状況の分析と経営上の課題	56
3. 財産目録	57
4. 監事の監査報告書	58
IV 対処すべき課題	
1. 中学校・高等学校の教育関係	59
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	59
3. 大学の新学部・新学科等の増設等	59
4. 大学の教育・研究関係	59
5. 大学の学生募集計画	60

学校法人 松蔭女子学院

2022(令和 4)年度 事業報告書

(2022(令和 4)年 4 月 1 日から 2023(令和 5)年 3 月 31 日まで)

変えられないものと変えるべきもの

理事長 中村豊

2022 年度大学新入生の定員充足率は 63%という非常に厳しい結果となったが、この年をもって学院の長期計画及び大学の中期計画が終了した。これに従い、学院・大学は新たな計画立案が必要となり、学院については理事長・校長・学長を中心に学院長期計画検討委員会を 7 月に設置した。本学を含め、2022 年度の京阪神小規模女子大 15 校中 8 校の定員充足率が 70%以下に象徴される、女子受験生の大学選択が著しく変化している現実を直視しながら、今後の学院や大学の方向性を協議した。

2015 年度の統計では、38.1%であった女性の非正規労働者は、2020 年には 54.4%に上昇している。長い間不況が続き、一般職女性の多くが非正規労働者に置き換えられてきたのが原因の一つである。その一方、女子の大学進学率が上昇し、大卒女性の採用が増えた結果、総合職女性も次第に増加しつつある。企業の多くは、女性の能力や意欲が多様化している日本社会に必要な不可欠であることに気づいてきたからである。このような社会の動きに連動し、中学校からや高校のキャリア教育実施により女子生徒に実務志向が高まっている。社会で働くことを見据えた女子生徒にとって、小規模女子大より共学校を選択する傾向が次第に顕著となり、家政系学部が敬遠され、男子と同様、経済・経営学部や法学部、国際系学部入学を望む女子受験生が増加していると教育専門家は分析している。加えて、受験生にとって小規模大学は学部・学科の選択肢が少ないという弱点も指摘されている。これらの外的理由に加え、受験生の多くは、本学には今の時代に見合った学科が少ないというイメージを抱いているのではないかと、キリスト教主義学校として今まで培われてきた神戸松蔭のユニークさや魅力を受験生に十分にアピールできていないなどの評価が学院内にある。注目に値する学びを受験生に十分に提供できていない責任の重大さを痛感している。

文部科学省の統計によると、2032 年の大学入学者数は 56.6 万人と推定され、2020 年比 6.9 万人減で、入学者は大都市圏の大学に集中すると予測している。今後、本学への入学者の増加を期待することは困難な状態であることが分かる。これを踏まえ、長期計画検討委員会は、今後 10 年を見据えて学院教育の 3 つの柱を作成した。

1. キリスト教主義を重要な前提とする
2. 多様性を生かした教育を実践する
3. 神戸の地域性に立脚した社会貢献に役立てる

大学受験生が減少し学院の将来像を明確に描くことが困難な状態のなかにあって、アメリカの神学者ラインホルド・ニーバーが作ったとされる有名な祈りを思い浮かべる。

「神よ、変えることのできないものを冷静に受け入れられるよう、私たちに恵みをお与えください。変えるべきものを変える勇気と、変えられないものと変えるべきものを峻別する知恵を私たちに与えてください。」

人々によって作られた 130 年を引き継いで

神戸松蔭女子学院大学

学長 待田昌二

2022 年は松蔭女子学院創立 130 周年の節目の年であった。9 月の創立記念日には、神戸国際会館こくさいホールで記念式典を挙行了。創立以来一貫して神戸の地で教育活動を行ってきた本学院にとって、本学の発祥の地に程近い場所で神戸市長を来賓に迎えて式典を行えたことは誠に喜ばしいことであった。あらためて、本学の歴史を形作った卒業生、教職員、そして本学院を支えてこられた関係者の皆様に感謝申し上げたい。

130 年という長い時間の間に、本学院は戦争や震災をはじめとして様々な困難に直面してきたが、この 3 年間もまた困難な日々であった。2020 年 4 月に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため外出の制限が要請され、新年度の授業開始を延期して学生のキャンパス入構を禁止して全ての授業を遠隔授業として実施することとなった。学生・教職員が親しく声を掛け合いながら学ぶことを特徴とする本学院にとって、苦渋の決断であった。2021 年度は、対面授業を基本としながらも、感染者の増加による緊急事態宣言が発令されて遠隔授業中心へと変更することもしばしばあり、引き続き学生・教職員ともに対応の難しい一年であった。

2022 年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応が重要な課題であったが、キャンパス正常化への道筋がようやく見えた年であった。授業については、原則として対面授業で実施することとしてスタートし、一年間その方針の下で授業実施することができた。誕生日感謝礼拝、イースター礼拝といったチャペル行事など諸行事も、学生たちが参加する形で実施することができた。中でも、大学祭である松蔭祭を対面の形で実施し、その賑わいを再びキャンパスで目にするのができた時には、大学生活がようやく戻ってきたことを実感した。また、英語学科の中期留学を皮切りに、海外留学を再開することができたことも非常に嬉しいことであった。感染症だけでなく、戦争による海外情勢不安、円安やインフレといった逆風が吹く中、多くの学生が参加した。日本の学生の内向き志向がしばしば話題になっているが、学生時代にぜひとも留学を経験したいという熱意がまだまだ強いことを感じた。関係者の努力によって、ようやくその熱意に応えることができた。

今年はまだ、2015 年度以来 7 年ぶりの、大学に対する外部評価を受けるという重要な年であった。大部の自己点検評価書類とその根拠となるデータを準備して提出し、書面評価を経て秋には評価委員による実地調査があったが、この 4 月に大学基準協会より大学基準への適合認定を受けることができた。適合認定を受けることは最低限必要なことであり、それだけで満足できることではなく、さらに大学運営を改善していかなければならない。しかし、大学教育の継続が認められ、130 年の節目の年に、歴史をさらに積み重ねることが認められたということもできる。

新型コロナウイルス感染症が社会全体に大きな影響を及ぼしていたこの 3 年間、大学教育を継続することの困難さをしばしば感じた。しかし、本学院の先人たちも、このようなあるいはこれ以上の困難を、日々の努力を積み重ねることで乗り越えてきたことだろう。その営為をあらためて感じる一年であった。

少子化に抗って

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井宣光

「一度に千人くらい採用するらしい」「時給が結構いいらしい」「着ぐるみの仕事もあるらしい」云々。東京で大学生活をおくっていた頃、友人間であるバイト募集が話題となった。「東京ディズニーランド」開園前のことである。米国外での初登場のテーマパークは、後にディズニーシーも併設して今や 60 種類以上のアトラクションを誇る。JR 駅に接続する園内専用モノレールに加え、幾つもの大型ホテルを併設し、今やアジア有数のリゾートエリアに発展している。開業 40 周年を迎えた先月の新聞記事に、運営会社 CEO が語っていた。「永遠に完成することのないテーマパークとして、この先も進化成長を続ける。」

昨年の出生者数が 80 万人を切った。第 2 次ベビーブームの年間出生者数 200 万人台の数字が最早現実とは思えない。この世代が 80 年代、90 年代の私立中学受験ブームを後押しし、松蔭中高の生徒数も一学年 300 人、全校で 1800 人を優に超えていた。だがその頃にはすでに少子化傾向は始まり、出生者数が 120 万人前後まで減少していた。21 世紀に入りしばらくは在籍生徒数千人を数えていたが、ちょうど 10 年前、千人台を切った。2016 年には 90 年代の半数となり、その後も「異次元」の少子化と生徒数減少が続く。

学校改革にあたってまずは「隗より始めよ」と、学校のかつての得意分野「英語」から始めた。伝統の「英語の松蔭」看板の「再塗装」のために、県内初の中学入試での英語 1 教科試験、聖ミカエル国際学校との連携プログラム、英語漬けの“English Room”、小学生向け英会話講座を開講した。土曜授業も再開し、2020 年には中学ストリーム制を導入した。英語力と国語力、探究と ICT の 4 本柱による松蔭の新しい“Stream”だが、次第に「英語教育が評判ですね」の声を聞くようになった。中学募集の補完措置としての高校募集を本格化させて今春を迎えている。

問題はこれからである。次の 2 点を重点としたい。第一に、理数系強化である。松蔭の歴史と伝統からは未踏の地であろう。さらには理系・文系の枠を横断して学び、問題を見つける力や解決する力をはぐくむ「STEAM 教育 (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)」の推進である。高校コース名称「LS (ランゲージ&サイエンス)」の「サイエンス」には、理数系への道筋が見える。具体的なコンテンツ作りに取り掛かりたい。次に、グローバルな探究学習の一層の推進である。グローバル時代に求められる様々なスキルや能力の育成は、全ての国と地域の教育課題である。特に世界共通の教育コンテンツ「国際バカロレア (IB)」取得のためのプログラムに注目する。本校のスクールポリシーも「国際バカロレアの教育理念を生かして」と記してある。理念をどのように教育課程に落とし込むかを検討し、新しい枠組みづくりを行いたい。

ウォルトディズニーは、「世代を超えて夢を貰える場」としてディズニーランドの理念を語った。東京ディズニーリゾートは、今も進化成長し続けている。学校の校風や歴史について卒業生と言葉を交わすたび、松蔭は世代を超えて、夢のある学校であったことをあらためて認識する。その点を揺るぎない学校の基盤としつつ、従来の枠組みにとらわれない教育づくりが求められる時代なのだ。教育活動にも完成形はない。とどまることのない進化成長こそ、学校が少子化に抗い結果を残す有効な手段であると思う。

I 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地

法人の名称：学校法人松蔭女子学院

主たる事務所の所在地：兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

電話番号（代表）：078-882-6122

2. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

【松蔭女子学院のモットー】

聖書にイエスの言葉として以下のように書かれている。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」(マルコ 4:30-32)

イエスは、小さなからし種でも、この種に、姿かたちを変えながらの成長を期待して神の愛と恵みが注がれるならば、やがて鳥が枝に巣を作るほどの木になると約束した。

松蔭女子学院という場での学びを通して、絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献する女性としての成長を促すのが松蔭女子学院の教育理念である。

3. 学校法人の沿革

明治 25 年 1 月 英国聖公会 S.P.G.より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立

明治 32 年 12 月 文部省より私立学校令による設立認可

明治 44 年 5 月 文部省より専門学校入学者検定第 8 条第 1 号による指定を受ける

大正 4 年 4 月 私立松蔭高等女学校に改称

大正 11 年 3 月 私立松蔭高等女学校財団法人設立

昭和 5 年 4 月 専攻科設置(修業年限 1 年)

昭和 22 年 3 月 松蔭女子専門学校設立認可

昭和 22 年 4 月 学校教育法により松蔭中学校設置

昭和 23 年 4 月 学校教育法により松蔭高等学校設置

昭和 25 年 3 月 松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置

昭和 26 年 3 月 学校法人松蔭女子学院寄附行為認可

昭和 28 年 4 月 短期大学に服飾科増設

昭和 35 年 4 月 短期大学に家政科増設

昭和 37 年 4 月 短期大学に日本文学科増設

- 昭和 41 年 4 月 松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
- 昭和 44 年 4 月 短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
- 昭和 49 年 4 月 松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
- 昭和 55 年 4 月 六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転
大学キリスト教学科廃科
- 昭和 56 年 4 月 六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
- 昭和 56 年 9 月 六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
- 昭和 61 年 4 月 短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
- 昭和 61 年 4 月 短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
- 平成 3 年 4 月 短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
- 平成 4 年 4 月 大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
- 平成 4 年 9 月 学院創立 100 周年
- 平成 7 年 4 月 大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更
- 平成 12 年 4 月 大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置
大学文学部に総合文芸学科設置
短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止)
短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
- 平成 13 年 4 月 大学文学部に心理学科設置
- 平成 14 年 4 月 大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
- 平成 16 年 4 月 大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置
大学に人間科学部心理学科設置
大学文学部心理学科学生募集停止
- 平成 17 年 4 月 大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置
短期大学生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止
神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更
大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
- 平成 19 年 大学 60 周年記念事業実施
- 平成 19 年 9 月 短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
- 平成 20 年 4 月 大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置
大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更
短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
- 平成 21 年 4 月 大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される
- 平成 22 年 4 月 大学 文学部心理学科を廃止
(財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。

- 平成 23 年 4 月 文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止
文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更
文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置
- 5 月 神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止
- 平成 24 年 学院創立 120 周年記念事業実施
- 平成 27 年 4 月 認定こども園松蔭おかもと保育園開園(系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会)
- 平成 28 年 4 月 (財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 29 年 3 月 文学部英語英米文学科、国文学科を廃止
- 4 月 人間科学部生活学科学生募集停止
人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置
- 平成 31 年 4 月 教育学部教育学科を設置
人間科学部子ども発達学科学生募集停止
文学部英語学科の収容定員変更
文学部総合文芸学科の学生募集停止
- 令和 3 年 4 月 大学院文学研究科言語科学専攻(博士後期課程)の学生募集停止

4. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1)神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学研究科	修士課程	英語学専攻	5人
		国語国文学専攻	5人
		心理学専攻	10人
		合計	20人

(2)神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学部	英語学科	100人
	英語プロフェッショナル専修	
	グローバルコミュニケーション専修	
	日本語日本文化学科	60人
	小計	160人
人間科学部	心理学科	70人
	都市生活学科	100人
	都市生活専修	
	食ビジネス専修	
	食物栄養学科	60人
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60人
	小計	290人
教育学部	教育学科	120人
	幼児教育専修	
	学校教育専修	
	小計	120人
	合計	570人

(3)松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

全日制課程普通科	350人
----------	------

(4)松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

315人

5. 学部学生数の状況

神戸松蔭女子学院大学

(2022年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学部	160	72	640	579
人間科学部	290	209	1160	1091
教育学部	120	78	480	346
合計	570	359	2280	2016

6. 収容定員充足率

神戸松蔭女子学院大学

(2022年5月1日現在)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学部全体	79%	87%	96%	96%	88%

7. 役員（理事・監事）に関する事項

(1) 理事

定数：11人以上16人以内 現員：14人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職	就任年月日
1	理事長	非常勤	中村 豊	理事長	平 28.4.4
2	常務理事	常勤	郡司 隆男	院長	平 20.4.1
3	常務理事	常勤	待田 昌二	大学教授・学長	平 28.4.1
4	常務理事	常勤	浅井 宣光	中高校長	平 22.4.1
5	常務理事	常勤	永井 良昭	法人事務局長	平 18.4.1
6	常務理事	常勤	坂本 真佐哉	大学教授・副学長	令 2.4.1
7	常務理事	常勤	片平 理子	大学教授・副学長	令 2.4.1
8	常務理事	常勤	芳田 克巳	高校副校長	平 23.4.1
9	常務理事	常勤	澤田 知之	中学副校長	平 30.4.1
10	常務理事	常勤	上野 智子	大学事務局長	平 30.7.1
11	常務理事	常勤	中川 雅博	中高教諭	令 4.4.1
12	理事	非常勤	西原 興一郎	会社役員	平 31.4.1
13	理事	非常勤	檜山 和司	会社役員	令 2.4.1
14	理事	非常勤	山形 紀世美	同窓会長	令 2.4.1

(2) 監事

定数：2人以上4人以内 現員：2人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職等	就任年月日
1	監事	非常勤	山口 純	米国会計士	令 2.4.1
2	監事	非常勤	光葉 正博	会社役員	令 4.5.27

(3) 役員賠償責任保険の状況

- ・本学の役員等が、自らの業務に起因して損害賠償請求を受けた場合の役員の経済的・精神的な負担を軽減すると共に安定的な経営を行うべく、日本私立大学協会の団体制度である「私大協役員

賠償責任保険制度」に加入している

・契約内容の概要は以下のとおり。

① 保険期間:令和4年4月1日～令和5年4月1日

② 支払限度額:500,000,000円

③ 被保険者:理事、監事、評議員、管理職従業員、退任理事・評議員

8. 評議員に関する事項

定数:23人以上37人以内 現員:29人

	氏名	就任年月日	現職等
1	郡司隆男	平 20.4.1	院長
2	待田昌二	平 24.4.1	大学教授・学長
3	浅井宣光	平 16.4.1	中高校長
4	永井良昭	平 12.4.1	法人事務局長
5	片平理子	令 2.4.1	大学教授・副学長
6	坂本真佐哉	平 28.4.1	大学教授・副学長
7	芳田克巳	平 18.4.1	高校副校長
8	澤田知之	平 28.4.1	中学副校長
9	田中まき	平 28.4.1	大学教授
10	竹中康之	平 20.4.1	大学教授
11	上野智子	平 30.7.1	大学事務局長
12	高瀬小織	令 2.4.1	大学職員
13	中川雅博	令 4.4.1	中高教諭
14	大槻泰史	平 30.4.1	中高教諭
15	永井晃	平 24.4.1	中高教諭
16	上原美由紀	令 2.4.1	中高教諭
17	松田宣子	平 20.4.1	大学教授
18	山形紀世美	平 29.4.1	大学同窓会長
19	トーマス三香	令 2.4.1	中高同窓会長
20	富士ひろ子	平 29.6.1	会社役員
21	中村 豊	平 13.4.1	理事長・聖職者
22	沼田弘志	令 2.4.1	学識経験者
23	小林尚明	令 3.4.1	聖職者
24	西原興一郎	平 15.6.1	会社役員
25	檜山和司	平 22.5.29	会社役員
26	安福朗	令 4.4.1	中学校・高等学校校長
27	加藤巡一	令 4.4.1	学識経験者
28	平井豊和	平 24.4.1	学識経験者
29	沢松順子	平 26.6.1	学識経験者

9. 教職員に関する事項

(1) 教 員

	(専 任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	25 人	—	60 人
大学 人間科学部	41 人	—	114 人
教育学部	24 人	—	48 人
(大学専任教員の平均年齢)	(54 歳)	—	—
小計	90 人		222 人
高等 学校	24 人	0 人	14 人
中 学 校	19 人	3 人	8 人
小計	43 人	3 人	22 人
計	133 人	3 人	244 人

(2022 年 5 月 1 日現在)

(2) 職 員

	(専 任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(*7 人)	(*1 人)	—
大 学	75 人	36 人	15 人
高等学校	7 人	12 人	—
中 学 校	5 人	5 人	0 人
計	87 人	53 人	15 人

*法人本部職員は、大学、高等学校の職員が兼務 (2022 年 5 月 1 日現在)

10. 校地・校舎等面積

(1) 校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	60,461.43
野外訓練場	16,049.00
松蔭大学会館	1,899.35
大山ロッジ	32,853.00
青谷キャンパス	17,997.16
千と勢会館	795.46
合 計	130,055.40

(2) 校舎等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	34,266.26
松蔭大学会館	5,064.71
大山ロッジ	686.26
青谷キャンパス	21,975.89
千と勢会館	936.09
合 計	62,929.21

II 事業の概要

1. 法人

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会:3回開催、評議員会:3回開催、常務理事会:12回開催)

【理事会】

- ① 日 時 令和4年5月27日(金) 午後4時30分～6時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 監事選任の件
第2号議案 決算の件
第3号議案 事業報告の件
- ② 日 時 令和5年1月12日(金) 午後5時30分～5時50分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 大学会館売却の件
第2号議案 私大協役員賠償責任保険加入の件
- ③ 日 時 令和5年3月24日(金) 午後6時～7時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 大学学則変更の件
第2号議案 松蔭女子学院長期ビジョンの件
第3号議案 中期計画の件
(1) 大学中期計画
(2) 中学校・高等学校中期計画
第4号議案 令和5年度事業計画の件
第5号議案 令和5年度予算の件
第6号議案 評議員の重任の件
第7号議案 理事重任の件
第8号議案 理事の競業の件

【評議員会】

- ① 日 時 令和4年5月27日(金) 午後6時～7時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 監事選任の件
(報告事項) 1. 決算の件
2. 事業報告の件
- ② 日 時 令和5年1月12日(金) 午後5時～5時25分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 大学会館売却の件

- 第2号議案 私大協役員賠償責任保険加入の件
- ③ 日 時 令和5年3月24日(金) 午後4時30分～6時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
- 議 案
- 第1号議案 大学学則変更の件
第2号議案 松蔭女子学院長期ビジョンの件
第3号議案 中期計画の件
 (1) 大学中期計画
 (2) 中学校・高等学校中期計画
第4号議案 令和5年度事業計画の件
第5号議案 令和5年度予算の件

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月1回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

(議決事項)

- 1.教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
- 2.職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
- 3.予算の執行に関する事項
- 4.全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
- 5.その他理事会から特に委任された事項

(審議事項)

- 1.理事会に提案する事項
- 2.建設計画に関する事項
- 3.教職員組合との協定に関する事項
- 4.その他理事会から特に付託された事項

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅 井 宣 光
副 校 長	澤 田 知 之
副 校 長	芳 田 克 巳
教 務 部 長	大 槻 泰 史
宗 教 部 長	坪 井 智
生 徒 部 長	上 原 美由紀
総 務 部 長	吉 川 祐 子
進路指導部長	中 川 雅 博
入試広報室部長	小 林 裕 典
事 務 長	平 田 健 二
事 務 次 長	岡 田 知 子

(2) 職員会議、その他の委員会等の開催状況

全教員（専任教諭、常勤講師）による定例職員会議を月 1 回開催した。また、各学期末に成績会議を持ち、年度末には修了・進級認定並びに中学校・高等学校の卒業認定を行った。学校運営に関する諸事項を決定する校務運営会議（校長、副校長、各校務部長）、校務学年主任合同会議（校務運営会議構成員、中高学年主任およびストリーム主任）を月 1 回程度開催したほか、教科主任会議（月 1 回）、各校務部会（月 1 回）、教科会議（月 1 回）を定例の会議とした。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営について検討、立案した。カリキュラム委員会は、次年度からの高校新コース制について検討した。

(3) 教学関係

①新型コロナウイルス感染症に係る対応

2022 年冬以来の感染第 6 波の余波が止まらないなかで年度が始まった。その後、感染力が強いオミクロン株により第 7 波、第 8 波にみまわれ、学校関係者（生徒、教職員）では 150 名の感染（陽性）を確認した。中高 6 学年で 1 学級について学級閉鎖措置を講じたが、校内の感染対策の徹底により大規模な集団感染は見られなかった。学校行事では、文化祭、体育祭ともに開催したが、参観は家族に限った。宿泊行事については、中学 1 年の鉢伏高原山のキャンプ、中学 2 年の British Hills 英語研修、中学 3 年の沖縄修学旅行、高校 2 年の石垣島・八重山方面修学旅行を感染対策を講じながら実施した。

3 学期末には、マスク着用ルールの緩和方針が政府より発表され、また、新年度の学校ではマスク着用を要しないとの通知が文部科学省よりあった。本校でも次年度の学校としての感染症対応のガイドラインを策定し、生徒、保護者に周知した。生徒の毎朝のデジタルによる健康観察の取り止め、学校独自の発熱基準（37.0 度以上で登校を控える）の撤廃、校内のマスク着用を任意とすること等を決定した。

②2022 年度学校運営方針

年度当初の教職員会議で確認し、共通理解を持った。各部署では日々の教育活動に落とし込むこととした。

(7) スクールモットー“Open Heart, Open Mind”の精神に立つ、多様性を尊重する学級、学校づくり。

(4) 「個」として自立し、自主的、自発的に行動する生徒を育てる学級、学校づくり。

(5) たがいにリスペクトし、「いじめ」行為を許さない生徒を育てる学級、学校づくり。

(エ) 情報社会での自己の行動、情報発信に責任を持つ生徒を育てる学級、学校づくり。

③ 中学の学習—ストリーム制の学習—

学校運営方針のもとで DS（ディベロップメンタルストリーム）と GS（グローバルストリーム）の 2 つの教育課程を編成した。国語力、英語力、探究学習、ICT の 4 本の柱により生徒を育成する方向性を同一にしながら、生徒の適性に応じて異なる教育アプローチをすすめるものとした。

DS では、日本語の基礎や表現力を育成する「国語探求」授業、一人一台のタブレットを利用して英語コミュニケーション力を育成する「ICT English」授業を学校特設科目として行った。英語ネイティブ教員による「オーラル」授業はグレード別（習熟度別）に実施した。探究学習については、後述の「奉仕活動の日」活動に関連付けて中学 3 年生が取り組んだ。理数系進路を視野に入れ、数学の応用力を育成する学年別課外講座「数学特進講座」を開講した。

DS 中 1 は、学年目標「ともに歩む」を合言葉とし、生徒、教職員、保護者が一体化してともに成長しようとして申し合わせた。毎朝、朝礼前の時間を「手帳の時間」とし、自己管理能力と学習習慣の定着を図った。また、家庭での「生活の 3 点固定（起きる時間・勉強を始める時間・寝る時間）」を意識付ける指導を行った。通常の保護者参観以外に、授業参観週間を設け、テスト成績報告会も開催した。

DS 中 2 の学年目標は、前年度に引き続いて「彩（いろどり）」とし、互いの個性をリスペクトする姿勢を持つ意味を重要視した。朝礼前には手帳による自己管理と学習習慣づくり、「生活の 3 点固定」意識化のほか、「朝の学びのとき」として、タブレットを使用する英語、数学学習を行った。

DS 中 3 の学年目標は前年度から継続して「生きぬく力・思いやる心」とした。手帳を使用した生活管理のほか、特に学習面では定期考査・実力考査の前の「やることリスト」書き出しなど、個々の取り組みを明確化する指導を行った。

GS では、中 1 から中 3 まで共通して“Know the world, Embrace the unknown（世界を知り未知との遭遇を楽しもう）”を学年目標の言葉とし、探究学習と英語コミュニケーション力育成を中心に教育活動を行った。学年ごとの取り組みと、学年を越えたタテ割りの活動を組み合わせて、基礎知識とスキル、分析の視点そして各テーマについて、各学年、各学期の到達目標を設定した（下表参照）。中 2 後半より英語によるプレゼンテーションも行った。3 学年合同の「朝の音読」では、日本語の時事ニュースや様々なジャンルの小説、演劇を題材に音読や「静読」に取り組んだ。

2022/4/1	1 学期	2 学期	3 学期
中学 1 年 GS 環境と防災	論理（具体と抽象）	論理（意見と根拠）	論理（意見と事実：主観と客観）
	ICT スキル	物の見方（時間・場所・立場など）	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展（SDGs）	問いの想像と創造	地域性（Kobe in Japan, Japan in the world）
中学 2 年 GS いのちと伝統文化	論理（グルーピング、多様な視点） 女性と将来	論理（対比、多様な視点） 賛否：答えのないもの	論理（仮説と検証） アイデンティティ
	国際社会の平和と発展（SDGs）	伝統（国や地域）と文化	受容と公正（オープンハート&オープンマインド）
中学 3 年 GS 私たちの社会	論理（予想される反論：反駁、展望）	論理（理由①と理由②のまとめ方）	論理（既習事項の連結及び統合）
	国際社会の平和と発展（SDGs）	未来デザイン（妄想、想像、創造）	アイデンティティ
	社会発展による恩恵と弊害	社会システム	日本と世界（グローバル視野）

なお、両ストリームの中学 3 年生 3 学期には、基礎学力判定試験を受験した。この試験は、松蔭高校入試当日、同じ入試問題を全員が受験し、学力点検を行うものである。未到達者対象の補習も実施し、高校進学に備えた。

④ 高校各学年の学習の取り組み

高 1 は、「If you dream it, you can do it.」を学年目標とし、意志をもって将来に向けて努力すること

を課題とした。新学習指導要領の初年度にあたり、各教科ではシラバスを改訂し、学習と評価を一体化させて中学に引き続き観点別評価ができるよう工夫を行った。特進クラスは国公立大、難関私大合格を目標とし、標準クラスは併設大を含む中堅私大への進学を目指すものとした。始業前の「朝学の時間」には、各自のタブレットを利用した学習に取り組んだ。学年独自の英検対策講座のほか、特進クラス生徒および希望者のための数学特進講座を開講した。

高2は前年度に引き続き「自他を大切に」を学年目標とした。旧課程によるコース制の最終学年となるが、クラス編成の都合によりコースⅠとⅡSを合同クラスとし、コースⅡは2クラス編成とした。学習面では、8時前から開始する「朝寺子屋」学習会では、希望者が学習に励んだ。また、朝礼前の全員学習も行った。学年独自の「自習室延長利用メイト」の制度により、所定の下校時刻以降も自習室を利用できるようにした。

高3は、学年目標「人はそれぞれの歌を持つ(ネイティブアメリカンの言葉)」「より高き調べを奏でよ」を合言葉にして最終学年、進路実現に取り組んだ。高2同様コースⅠとⅡSを合同クラスとし、コースⅡは2クラス編成とした。年度当初より生徒面談、保護者を含む3者面談を頻繁に行い、志望校を選定した。2学期には、学校推薦型選抜(指定校推薦)や一般公募推薦、松蔭大学特別推薦、総合型選抜(AO入試)の入試方式別の指導を行い、引き続いて3学期の大学入試センター試験、私大および国公立大一般入試に向けた指導も行った。

⑤学校式典や行事

入学式(4/7 中学・高校合同)、中学卒業式(3/22)、高校卒業式(3/1)のほか、学院創立130周年記念式典(9/17 神戸国際会館こくさいホール)などの儀式的行事を挙行了した。

生徒活動行事として、各学期に中高それぞれのアゼンブリー(生徒集会)を開催した。

文化的行事としては、文化部の活動発表の機会として文化祭(4/28, 29)を開催した。全校団体鑑賞では、和太鼓鑑賞(6/2 舞太鼓あすか組)を行った。また、前述の学院創立式典に際し、記念音楽会としてBCJ(バッハ・コレギウム・ジャパン)演奏会(9/17)を開催した。中1対象の県立芸文センター管弦楽団「わくわくオーケストラ教室」(11/1)も実施した。健康安全・体育的行事としては、体育祭(9/30)、各学期末の球技大会を行った。

旅行・集団宿泊行事として各学年、ストリームでは次のプログラムを実施した。

修学旅行：高2(10/24～27) 沖縄八重山諸島・石垣島

DS中3(10/25～28) 沖縄本島

宿泊研修：DS中1 山のキャンプ(7/30～7/31) 鉢伏高原

DS/GS中2 British Hills 英語研修(10/31～11/2)

遠足(5/1)：六甲山系各コース(学年別)

校外学習(10/28)

DS中1 立杭焼と丹波篠山散策

DS中2 野島断層・大塚国際美術館見学

GS中1 Peace&Nature 大沢ベース(神戸市北区)

GS中2 カップヌードルミュージアム・五月山動物園・大阪市立科学館

GS中3 大阪市下水道科学館、梅田スカイビル空中庭園

高1 東大寺・奈良公園

勤労生産・奉仕的行事としては、サービスマーケティングのプログラムである「奉仕活動の日“SHOIN School Campaign”」活動を中学および高1、高2で行った(後述)。

キリスト教関連行事として、春と秋の宗教週間行事と特別礼拝を行った(後述)。

学外団体との連携行事・授業として、中1 体育「ダンス特別授業 (OSK 歌劇団)」、中2 体育「なぎなた特別授業 (神戸松蔭女子学院大学なぎなた部)」、J3G 社会「ライフサイクルゲーム授業 (第一生命保険株式会社)」、高1 総合探究「STEAM 教育出前授業 (メットライフ生命・神戸市) を行った。

⑥特色ある英語教育、国際理解教育

フルタイム勤務の英語ネイティブ教員を DS・GS 中学各学年に配置し、授業だけでなく朝終礼、学校行事などでも英語に触れる機会を設けた。DS 中学の英語オーラル授業は、グレード別 (習熟度別) に実施した。学校特設科目「ICT English」では、タブレットを利用したスピーキング練習やオンライン英会話を実施した。中高全学年で英検 2 級までの早期合格の取り組みをすすめるとともに、学校を英検本会場とした。第 3 回英検 (1 月実施) では、2 級未取得者の受験を義務付けた。GS 中学各学年および DS 中 2 では、TOEFL Junior と TOEFL Primary も活用した。課外の「英検対策講座」(準 1 級、2 級) を開講し、希望者が学年の枠組みを越えて受講した。インターナショナルスクール聖ミカエル国際学校との連携では、高校生対象「土曜学校スクールアシスタント」プログラムが感染症のために中止となったが、GS 中学各学年では、英語イマージョン授業「Shoin Global Saturday English Class」を通年で行ったほか、夏休みの英語研修として、聖ミカエル国際学校「Summer Camp」(計 10 日間) に参加した。なお、この英語研修には希望する DS 中学各学年の生徒が参加資格を与えた。中学生「英語オーラルレシテーションコンテスト」では、DS 生徒のレシテーション (暗唱) とスピーチ、GS 生徒の動画プレゼンテーションにより、ストリームと学年の枠を越えた英語の学習の成果を発表する機会となった。

英語力の向上について、特に中学 GS 生徒について特筆すべきものがある。英検準 1 級に 2 名が合格しているほか、全体の 9 割が 2 級～準 2 級程度の英語力レベルに到達している。

国際理解教育については、感染症により前年度に引き続いてニュージーランドの姉妹校 St.Peter's 校との春期交換留学および夏の短期語学研修、韓国の姉妹校信明高校、聖明女子中学校の異文化体験研修は中止した。代替プログラムとして、DS/ GS 生徒が聖明女子中学校生徒とオンライン交流を行ったほか、夏季休暇と冬季休暇中に 1 日ずつ English Camp を開催し、英語ネイティブ教員が指導した。

⑦総合的な学習、探究学習の取組み

各学年、ストリームでは様々な分野での総合的な学習や探究学習、その導入プログラムを展開した。中学 DS の「総合的な学習」では、DS 中 1 は「マナー」をテーマとし、クラスの安心ルール、SNS のマナー、携帯・スマホとの付き合い方、友人間のマナー、公共のマナーなどを指導したほか、スクールカウンセラーによる心のマナー講座「レジリエンス」を 4 回にわたり実施した。DS 中 2 は「いのち」を年間テーマとし、各学期に「生」「死」「生き方」について考えるプログラムを実施した。DS 中 3 は「平和」をテーマに、広島での被爆者の講演会と修学旅行先の沖縄での戦いと戦後について学習した。GS 中学各学年では「GL 探究」授業 (内容は上述のとおり) の一環として、各学期末にプレゼン機会をもった。高 1 「言語探究」授業では、海の環境保全活動に関する取り組みとして「うみぼす甲子園」(海をテーマにした啓発ポスター作成) を行い、1 グループが東京の決勝大会にも出場した。また、高 1 後半には、各自で設定した SDG s のテーマによりプレゼンテーションする取り組みを行った。

高校有志による PBL(プロジェクト型学習)Blue Earth Project は、各学年の全生徒対象のオリエンテーションを実施した。その後、希望者を募り、「女子高生が社会を変える」をスローガンに環境問題啓発活動に取り組んだ。2 学期には、神戸市垂水区の商業施設「マリンピア神戸」で高 1 生徒が活動した。神戸市の三宮センター街では、高 2 生徒が環境問題啓発アピール活動を行った。12 月より活動を開始した高 3 生徒は、「サステナブルファッション」をテーマに「衣類と環境」について探究活動を行い、西宮市の総合商業施設「西宮ガーデンズ」においてアピール活動を行った。

前年度にバザーの代替行事として始まった「奉仕活動の日” SHOIN School Campaign”」の取り組みは、今年度より、学外社会とのつながりを考えるサービスマーケティングのプログラムとして企画、運営を本格化させた。各学年、ストリーム、学級単位では、事前の活動により準備作業を行い、2月18日土曜日に以下に取り組んだ。

中学

DS 中1 清掃活動 青谷バス停・灘駅・王子公園駅周辺清掃

DS 中2 祈りの言葉を記した千羽鶴を広島へ届ける取り組み

DS 中3 家庭の不用品回収とアジア発展途上地域のリユース。平和へ提言

GS 中1 ジェンダー平等と貧困についての動画制作と発信

GS 中2 紙使用の削減プロジェクト。海外の中高生とのオンライン世界合同プレゼンテーション

GS 中3 廃油回収とキャンドル製作

高校1年 各自で設定したSDGs関連テーマによるプレゼンテーション

高校2年 高2アクションプランの発表会（クラスごとのテーマ設定と、各グループ）のプレゼンテーション

⑧大学進学・受験指導と高大連携

校長を座長とする進路指導中央会議を開催し、従来、学年団や担任に一任されていた個々の生徒の進学・進路指導を学校全体で支援する体制とした。過去の進路結果と在校中の成績推移、在校生の成績と進路希望を学年の枠組みを越えて共有し、受験指導に活用できるようにした。

学外の予備校講師が担当する校内予備校（高2、高3生対象「現代文」「英語」）を開講したほか、2学期後半～3学期には、「受験対策特別講座（英語）」（高1、高2対象）を試験的に実施した。

「進路ライブ」は、進路に対する意識と意欲を喚起するためのプログラムだが、進路が決まった高3生徒が中1、中3、高2の各学年生徒全員を対象に実施した。また、各大学へのキャンパスツアー（関西学院大学、関西大学、梅花女子大学、立教大学）を実施し、施設見学や模擬講義、卒業生との懇談は進路意識を高めた。

高大連携については、下記のように各大学からの高校出張授業を実施したほか、高大連携協定の締結等をすすめた。

2022年4月 梅花女子大との教育連携協定締結

2022年4月 関西大学総合情報学部出張授業

2022年5月 関西大学SDGsパートナー制度にBlue Earth Projectが登録

2022年7月 立命館アジア太平洋大学出張授業

2022年10月 神戸国際大学との教育連携協定締結

2022年11月 奈良女子大学工学部出張授業

2022年12月 関西大学総合情報学部出張授業

2023年2月 大阪成蹊大学との教育連携協定締結

⑨特別なニーズがある生徒への支援と保護者連携

学校独自の「生活アンケート」を年間2回実施し、学級への適応感やいじめなどのトラブルの有無など、生徒状況の把握に努めた。アンケート結果を生徒個人面談等に活用した。

いじめ事案の報告があった場合、聞き取り作業など調査を行うとともに、アンケート調査を実施し、事実関係の把握、生徒ケア（いじめ被害生徒）ケアと指導（いじめ加害生徒）、周辺生徒への指導によ

り問題解決を図ることとしている。2022年度は、中学1件、高校1件について当該「アンケート」を実施した。

特別なニーズがある生徒への支援「特別支援教育」と位置づけ、特別支援委員会を運営した。2022年度は4名（中学3名、高校1名）を対象生徒として個別指導計画を策定した。個々の特性や状況についての情報を共有、分析し、特別支援の専門家によるソーシャルスキルトレーニング（SST）を「個別指導教室」で実施した。認知訓練の教材を使用する「特別支援教室（芦塚教室）」も並行して運営し、特別支援委の対象生徒以外にも参加した。

不登校生徒への支援は、高校課程で「在宅学習単位認定制度」が2年目の運用を行った。高2は2名、高3は3名の計5名の生徒が本制度にもとづく特別教育課程を履修し、高3生徒は卒業が認定され、高2生徒は進級した。高3生は、4年生大学や専門学校への進路を実現した。中学課程の不登校生徒については、公設、民営を問わず、校外施設での学習や活動を、校長が出席扱いと認定する制度を運用して支援した。

相談室には、公認心理師資格を持つ3名のスクールカウンセラーを配し、生徒、保護者、教職員に対応した。「カウンセリングカンファレンス」を定期的開催し、児童精神科医師によるスーパービジョンを受けた。保護者のピアカウンセリングのプログラムとして「保護者おしゃべり会」を各学期に1回ずつ開催した。

⑩人権教育、性教育

宗教部人権教育係が主体となり、人権教育の今年度テーマを「障がいをもつ人に対する理解を深める」とした。教員研修は、松本緑氏（さくらこどもセンター・さくらエリクソンスクール代表）を講師に招き、特性のある生徒への対応、生徒を取り巻く集団や保護者への対応に関して心構えを学んだ。生徒対象に、人権啓発映画「水上のフライト」鑑賞会を行った。

性教育関連では、以下のプログラムを実施した。

DS中1：神戸市思春期ヘルスケア 専門職によるデリバリー授業

井上理絵講師（神戸市助産師会・神戸市看護大学）

テーマ「自分や他人の命の大切さ、性のありようについて」

DS中2：思春期ピアカウンセリング

高田昌代講師（神戸市看護大学）および学生

テーマ「様々な価値観があることを知り、どのように生きたいかを考える」

DS中3：神戸市思春期ヘルスケア 専門職によるデリバリー授業

テーマ「自分の体を大切にしよう」

井上理絵講師（神戸市助産師会・神戸市看護大学）

高2：いのち語り隊による性教育講演会

永原郁子医師（マナ助産院院長・一般社団法人小さないのちのドア代表）

テーマ「いのちを大切に使う方法について」

⑪キリスト教主義教育

礼拝の機会としては、週一回の「朝の全校礼拝」を中学・高校別に行った。その際の講話では、チャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年の教員も担当した。感染症対策のため、年度当初は聖歌を歌わず、講話とお祈りのみとしたが、9月以降には聖歌を歌い、通常通りの礼拝を行った。有志教職員、生徒による「早朝礼拝」、毎週金曜日昼休みの「ヌーンサービス」はレオノラチャペルで行われた。「お誕生日礼拝」を月1回行い、誕生月の生徒、教職員に「誕生日カード」を配布し、図書館作成の「あな

たへのお勧め図書紹介」も同封した。本年度実施の礼拝は以下のとおり。

- 4月16日(土) 入学感謝礼拝(神戸松蔭女子学院大学 マグダレンチャペル)
説教 日本聖公会神戸教区 小林尚明主教
- 4月27日(水) イースター礼拝
説教 日本基督教団はりま平安教会 松本あずさ牧師
- 6月8日(水) 1学期宗教週間 特別礼拝
説教 日本自由メソジスト教団布施源氏ヶ丘教会 高須純子副牧師
- 11月9日(水) 2学期宗教週間特別礼拝
講話 (株)どすこい代表 鈴木宣仁師
- 11月12日(土) 逝去者記念礼拝(レオノラチャペル)
- 12月21日(水) クリスマス燭火礼拝 説教 日本基督教団神戸東部教会 古澤百代牧師
- 1月17日(火) 震災記念礼拝(講堂) 震災記念の祈り(レオノラチャペル)
- 2月25日(土) 卒業感謝礼拝(H3)(神戸聖ミカエル大聖堂)

その他関連活動として、授産施設「にじ作業所」「パン工場なないろ」支援のため、校内でのパン販売の機会を増やした。オルガンレッスンについては、4名の生徒が受講し、全校礼拝や各行事で奏楽奉仕を行った。機関紙『チャペルニュース』を発行するとともに、書道部員が書いた聖句を教室や廊下に掲示した。関連活動日誌は以下のとおり。

- 4月23日(土) にじ作業所パン販売
- 5月21日(土) にじ作業所パン販売
- 6月6日(月)～11日(土) 1学期宗教週間
- 6月6日(月)～11日(土) チャリティーブックバザー(図書館)
- 6月8日(水) オルガンコンサート(講堂)
- 6月12日(土) 「教会へ行こう」(日本基督教団 神戸東部教会)
- 6月15日(水)・18日(土)・22日(水) にじ作業所パン販売
- 7月16日(土) にじ作業所パン販売(「オープンスクール」にて)
- 7月18日(月) 広島平和礼拝事前学習(神戸聖ミカエル教会)
- 8月5日(金)～6日(土) 広島平和礼拝
- 8月27日(土) にじ作業所パン販売(「オープンハイスクール」にて)
- 11月2日(水)・16日(水) にじ作業所パン販売
- 11月7日(月)～12日(土) 2学期宗教週間
- 11月7日(月)～12日(土) チャリティーブックバザー(図書館)
- 11月4日(金)～22日(火) クラス講話(レオノラチャペル)
- 11月8日(火) 人権映画「水上のフライト」鑑賞
- 11月7日(月)・11日(金) クリスマスグッズ作り(レオノラチャペル)
- 12月16日(金) ピースツリーのメッセージカード記入・セッティング
- 12月17日(土) ピースツリー・核廃絶署名活動・にじ作業所パン販売
(小学生対象「クリスマスの集い」にて)
- 2月18日(土) にじ作業所パン販売(「奉仕活動の日」にて)
- 3月10日(金) 震災記念碑めぐり

⑫生徒会活動、課外活動

生徒会活動は、感染症による様々な制限があったが、朝の校門での「挨拶運動」、「使い捨てカイロのリサイクル」、「ダルニー奨学金募金活動」に取り組んだ。生徒会役員選挙、生徒総会は、各教室とのリモート形式により実施し、投票は電子投票とした。生徒アSEMBリーでは、各クラブ活動や教科活動、個人活動の優秀者の表彰を行った。

課外活動のクラブ・同好会は以下のとおり。

<運動部（6部）>

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、テニス部、バスケットボール部、バドミントン部

<文化部（17部）>

演劇部、華道部、コーラス部、茶道部、写真部、食物部、書道部、箏曲部、バレエ研究部、ハンドベル部、BAND（軽音楽）部、BAND（フォークソング）部、美術部、放送部、マンガ研究部、マンドリン部、モダンダンス部

<同好会（6部）>

E.S.S.、少林寺拳法、ソフトボール、卓球、バイオリンアンサンブル、バレーボール

クラブ・クラス・個人の課外活動のうち全国大会等に出場したもの

<クラブ>

○アーチェリー部

- ・令和4年度全国高等学校総合体育大会
- ・高円宮賜牌第55回全国高等学校アーチェリー選手権大会
- ・第41回全国高等学校選抜大会

○書道部

- ・第69回日本学書展
- ・第38回成田山全国競書大会

○放送部

- ・第69回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会 TVドキュメント部門

<クラス>

○GS 中学2年Gクラス

- ・With The World 社主催「世界合同プレゼンテーション」

<個人活動>

○アーティスティックスイミング（高2生徒）

- ・第19回世界ジュニア選手権大会（in Canada）

○ゴルフ（中2生徒）

- ・2023PGM 世界ジュニアゴルフ選手権西日本決勝（優勝）
西日本代表として世界ジュニアゴルフ選手権〔米サンディエゴ〕出場決定
- ・全国中学校ゴルフ選手権春季大会
- ・つるやカップ

○デザイン

- ・手帳の匠コンテスト 2022 表紙デザイン部門

○俳句

- ・第33回伊藤園おーいお茶新俳句大賞

○ピアノ

- ・第12回日本バッハコンクール全国大会

⑬安全教育、防災教育

自転車事故の多発が社会問題となっている。交通安全に係る教育活動として、自宅から最寄り駅までの自転車利用者を把握するとともに、全校生徒を対象とする交通安全講習会を開催した。防災対策として、教職員対象の火災報知器の取り扱い講習会を開催した。全校避難訓練を年間3回実施し、年度初めに避難経路を確認するとともに、各学期に地震発生や火災発生を想定して訓練を行った。また、「大災害対応マニュアル」を配付し、生徒全員が常時携行するよう指導した。また、学校ホームページの安否確認入力フォームについても周知したほか、緊急時の保護者対象メール配信を補完するために、HP上に「緊急のお知らせ」欄を設けた。教職員対象の応急処置・心肺蘇生法講習会も行った。

⑭学校IT化、ICT教育推進、SNSの活用

生徒一人一台のタブレット保有は、中高6学年で完成した。生徒と保護者両方が持つClassiアカウント、生徒が持つマイクロソフトアカウントにより、生徒・教員間の学習課題の往復や連絡のICT化、保護者と学校間の連絡のデジタル化が実現した。様々な教育関連アプリの利用は学習を効率化させるとともに、文書配布や欠席、遅刻連絡のデジタル化、成績・学籍管理のための校務システム導入、テストのデジタル採点方式の試験的導入により、業務合理化が実現した。

マルチメディア委員会は、校内のICT環境整備、デバイスやアカウントの管理など情報機器の管理運営の主体として業務を行った。教員への業務負担を軽減するため、年度途中よりICT担当の事務職員を採用した。

学校ホームページとSNSをリンクさせ、学校活動の積極的周知をはかった。

⑮2022年度生徒数（4/1時点）、入学生数、卒業生数

在籍生徒数 556名（中学生244名 高校生312名）

中学校新入生 78名

高校入学生 22名（併設中学からの進学者を除く）

中学校卒業生 96名

高校卒業生 101名

(4)入試・生徒募集関係

①入試説明会（校内・校外）実施・参加状況

4月 3日（日）新聞社主催 私立中学受験フェス（グランフロント大阪）

4月23日（土）GS・GL説明会（校内）

4月23日（土）新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校入試報告会（神戸国際会館）

5月14日（土）新聞社主催 進学相談会（西宮フレンテホール）

5月15日（日）新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校入試報告会（明石らぼす）

5月 8日（土）オンライン個別相談（校内から）

5月21日（土）Singa Life 海外オンライン説明会（校内から）

5月29日（日）新聞社・塾共催 私立中高進学相談会（梅田サウスホール）

6月11日（土）高校授業見学会（校内）

6月12日（日）芦研模試会場（校内） 中学入試結果報告会（校内）

6月25日（土）中学授業見学会（校内）

7月 3日（日）出版社主催 私立小中高 個別進路相談会（須磨パティオホール）

7月14日（木）海外子女教育財団 帰国生のための学校説明会（ウェビナー、校内から）

7月16日（土）オープンスクール（校内）

7月17日(日) 女子教育セッション(神戸三宮 REI ホテル)
 7月18日(月祝) 新聞社主催 播磨リビング進学相談会(加古川プラザホテル)
 7月23日(土) 新聞社主催 私立中学高校進学サポートフェア(西宮フレンテホール)
 7月31日(日) 兵庫私学小中高等学校説明会 西宮会場(ホテルヒューイト甲子園)
 8月7日(日) 兵庫私学小中高等学校説明会 姫路会場(アクリエ姫路)
 8月20日(土) 21日(日) 兵庫私学小中高等学校説明会 神戸会場(神戸サンボーホール)
 8月27日(土) オープンハイスクール(校内)
 9月3日(土) 新聞社主催 兵庫県私立中学高等学校展(西宮神社会館)
 9月7日(水) 塾対象説明会(校内)
 9月10日(土) 第1回 中学校説明会(校内)
 9月11日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール神戸北)
 9月18日(日) 朋友ヴィッツ 私立中高入試合同説明会(武庫之荘トレピエ)
 9月23日(金祝) 新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校進学セミナー相談会
 (三宮コンベンションセンター)
 9月24日(土) 第1回 高校説明会(校内)
 9月24日(土) 第1回 課題図書プレゼン入試説明会(校内)
 10月2日(日) 明石説明会(ウィズあかし)
 10月2日(日) 私立高等学校 合同個別相談会(伊丹シティホテル)
 10月4日(火) 神戸市 私立高校入試合同説明会(神戸市総合教育センター)
 10月6日(木) 加印地区高校入試合同説明会(加古川市教育研究所)
 10月9日(日) 芦研模試会場(校内) 第2回 中学校説明会(校内)
 10月10日(月祝) 三田説明会(三田商工会館)
 10月16日(日) 新聞社主催 私立中学高校進学相談会(西宮フレンテホール)
 10月16日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール明石)
 10月23日(日) 阪神西宮説明会(西宮市民会館)
 10月29日(土) 第3回 中学校説明会(校内)
 10月30日(日) 宝塚説明会(宝塚ソリオホール)
 11月3日(木祝) 西神南説明会(西神南セリオホール)
 11月5日(土) 第2回 高校説明会(校内)
 11月13日(日) プレテスト(校内)
 11月26日(土) プレテスト 個別アドバイス会(校内)
 12月3日(土) 第3回 高校説明会(校内)
 12月3日(土) 第2回 課題図書プレゼン入試説明会(校内)
 12月10日(土) 第1回 英語面接練習会(校内)
 12月11日(日) 第4回 高校説明会(校内)
 12月17日(土) クリスマスの集い(校内)
 12月17日(土) 第2回 英語面接練習会(校内)
 12月17日(土) 課題図書プレゼン練習会(校内)
 12月24日(土) 個別相談会(校内)
 1月14日(土) 午前:A方式入試、午後:英語I入試、課題図書プレゼン入試
 1月15日(日) 午後:B方式入試 英語II入試
 1月21日(土) 合格者登校日(制服採寸・学用品購入等)
 2月10日(金) 高校入試

2月25日（土）高校専願入学予定者 登校日

3月23日（木）神戸市東地区女子中高一貫校合同説明会

（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）（東灘区文化センター）

3月24日（金）高校併願入学予定者 登校日

② 2023 年度 中学入試結果

	募集人員		志願者	受験者	合格者	入学者**
A方式入試	DS 約 100	*GS 約 30	58	57	56	DS51
英語Ⅰ入試			DS19	DS19	DS14	DS12
			GS12	GS12	GS11	GS 9
課題図書 プレゼン入試			5	5	5	DS 4
B方式入試	DS 約 20		国語 45	国語 18	国語 18	DS 6
			算数 24	算数 15	算数 15	
英語Ⅱ入試		*GS 約 30	DS 3	DS 2	DS 2	DS 0
			GS 7	GS 3	GS 3	GS 0
合計	約 150		173	131	124	DS63
						GS 9

*GS募集人員は、英語Ⅰ入試・英語Ⅱ入試を合わせて約30名

**入学者は、各入試方式での入学者数を記載しているため、重複を含む。

このため、各入試方式の入学者数を合計しても合計の人数にはなりません。

③ 2023 年度 高校入試結果

入試方式	コース	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
専願・推薦入試	LS	約 50	24	24	24	24
	GL		2	2	2	2
	AA		13	13	13	13
併願	LS		23	22	22	5
	GL		3	3	3	0
合計			65	64	64	44

*専願 12名特進希望 9名合格、

併願 16名特進希望 13名合格

*他に転入試験による高校入学生2名あり

(5)進路関係

①高3の進路状況全般（過去3カ年推移）

	2023年度入試	2022年度入試	2021年度入試
神戸松蔭女子学院大学（特薦）	22	40	44
外部大学	71	80	76
外部短大	0	4	5
専門学校・留学	4	12	3
その他	4	3	3
卒業生数	101	139	131

*松蔭特薦では専願21名、併願合格者6名。

*松蔭特薦併願者のうち進学1名。（前年度合格7名、進学2名）

② 2023年度入試 外部大学進学者数一覧

新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、全般的に引き続いて慎重な出願が目立つ入試となっていた。難関私大入試はやや難化し、逆に中堅以下は易化傾向にあった。

公募推薦や一般入試で甲南大学、近畿大学、大手前大学、神戸女学院大学など多様な大学に合格者が出た。進学希望者のうち1名が次年度大学入試を受ける選択をした。

2022年度高3進学者数（学校別）

学校	人数
神戸松蔭女子学院大	23
大阪経済法科大学	1
大阪歯科大学	1
追手門大学	1
関西大学	10
関西福祉大学	1
関西学院大学	4
京都外国語大学	2
京都芸術大学	2
京都ノートルダム女子大学	1
近畿大学	2
倉敷芸術科学大学	1
甲南女子大学	4
甲南大学	7
神戸学院大学	5
神戸芸術工科大学	2
神戸女学院大学	8
神戸女子大学	1

学校	人数
神戸親和大学	2
神戸常盤大学	2
神戸薬科大学	1
兵庫医科大	1
同志社女子大学	2
文化学園大学	1
明治学院大学	2
立教大学	4
立命館アジア太平洋大学	1
流通科学大学	1
大阪医専	1
辻学園栄養専門学校	1
兵庫県立総合衛生学院	1
ビジュアルアート専門学校	1
延世大学（韓国）	1
逢甲大学（台湾）予定	1
留学予定（オーストラリア）	1

(6) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

2022年度までの中期計画および2022年度事業計画においては、教学マネジメント面では、中学教育課程のストリーム制完成、高校教育課程での次年度新コース制の導入準備、進路・進学指導の充実、高大連携の推進を柱とした。まず、中学ストリーム制では、DSとGSの両ストリームで、それぞれ特色ある教育活動を展開した。高校教育課程では、高1が新学習指導要領による課程に入り、それを拡充する形で次年度からの新コース制展開の準備を行った。進路・進学指導の充実では、前年度途中から設置した進路指導中央会議を各学期末に開催した。高大連携については、各大学との教育連携をすすめ、新たな大学との間で学校推薦型選抜（指定校推薦）制度が設けられた。

経営・財務マネジメント面では、生徒募集対策の強化が喫緊の課題であった。特に高校募集数を50名に増員したが、志願者、受験者数がこれを上回る結果となった。中学入学者数の前年度比微増もあり、在籍生徒数は前年度とほぼ同数となった。

組織の改編と将来の人員構成や世代交代を見通した教職員配置が求められているが、複数年のスパンで柔軟に実施できている。財務状況の悪化に対しては、人件費圧縮の一方で、賃金保障の観点で教員のモチベーション維持には必要である。将来を見通す適切な財務を行うよう努めた。

3 大学

(1) 執行部関係

学 長	待 田 昌 二
副 学 長	坂 本 真 佐 哉
副 学 長	片 平 理 子
学長補佐(学生担当)	中 村 博 文
学長補佐(教務担当)	竹 中 康 之
学長補佐(入試担当)	長谷川 誠
図 書 館 長	田 中 ま き
宗 教 主 事	木 鎌 耕 一 郎
文 学 部 長	打 田 素 之
人間科学部長	徳 山 孝 子
教育学部長	谷 川 弘 治
事 務 局 長	上 野 智 子

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部、教育学部の3学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2022年度は12回開催し、次の事項を審議した。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 入学試験、編入学試験の合否判定
- ④ 科目等履修生の受入及び単位認定
- ⑤ 単位認定（入学前既修得単位・留学・語学研修・単位互換事業）
- ⑥ 学則等規程改正
- ⑦ 教員の長期研修

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画に基づき、学部・大学院全体の教育課程の編成・実施について審議している。2022年度は6回の会議を開催し、2023年度学部・学科、研究科・専攻及び課程のカリキュラム、履修規程改正、履修登録単位数の上限設定、2023年度遠隔指定授業について審議を行った。また、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムマップについて点検を行った。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2022年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
教学委員会	49回
入試総務委員会	27回
国際交流委員会	6回
自己点検・評価運営委員会	3回

広報委員会	1回
個人情報保護委員会	2回
全学共通教育委員会	1回
教職教育委員会	2回
I R室運営委員会	6回
専門委員会	
学生部委員会	0回
人事委員会	12回
教務委員会	15回
図書館運営委員会	11回
学術研究委員会	3回
公開講座運営委員会	1回
キリスト教センター委員会	1回
FD委員会	9回
ハラスメント防止対策委員会	7回
環境対策委員会	0回
ネットワーク委員会	0回
研究倫理委員会	10回

(5) 教学関係

(ア) 教育課程（カリキュラム）

- ・ 2023 年度のカリキュラム及び開講クラス数について審議を行った。学科・センターより申請されたカリキュラム編成、受講者数の資料について、学修時間、学修実態、授業評価結果、学修成果、資格取得実績等の IR 情報に基づき検討を行ない、適切であることを確認した。
- ・ 教育学科の完成年度に伴い、教育学部の全学共通教育科目系列を文学部・人間科学部に統一した。
- ・ 日本語日本文化学科の書道コース新設に伴い、実技能力の強化と確かな書道理論の習得を目指して科目の新設を行った。
- ・ 都市生活学科の都市生活専修及び食ビジネス専修を廃止し、生活環境、食マネジメント、地域ブランディング、生活社会・心理、生活経済・経営の 5 コース制を導入した。それに伴い、科目の系列変更や廃止・新設、名称変更を行った。

(イ) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

- ・ 教学マネジメント会議において、教育目標／ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに照らし、各教育課程のカリキュラムが編成されていることを確認した。
- ・ ディプロマ・ポリシーと科目の位置づけ（カリキュラムマップ）、シラバスに記載している到達目標との対応関係について、各学科及びセンターで点検を行った。

(ウ) 教育への ICT の導入

- ・ 遠隔授業の技術の維持・進展をはかり、教育の改革・改善を推進するため ICT を取り入れた「遠隔指定授業」を開設した。
- ・ 2022 年度入学生より BYOD（Bring Your Own Device）へ移行し、「BYOD 対象科目」を開設した。

(エ) 卒業時アンケート

大学 4 年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、卒業

生に対して「卒業時アンケート」を実施した。2022 年度より WEB 回答に変更して回収率は 89.9%であった。

(f) 卒業者数

2022（令和 4）年 9 月 9 日に、9 月卒業の認定会議を開催し、文学部 4 名（英語学科 3 名、日本語日本文化学科 1 名）と人間科学部 2 名（ファッション・ハウジングデザイン学科 2 名）の計 6 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2023（令和 5）年 2 月 27 日に卒業認定会議を開催し、文学部 3 学科 184 名、人間科学部 6 学科 2 専修 320 名、教育学部 1 学科 2 専修 102 名の計 606 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

(g) 標準修業年限で卒業した学生の割合等

2019 年度入学生の修業年限(4 年)での卒業者数、卒業率、留年者数、中途退学者数等は次表のとおりである。

学部	入学者数 (2019 年)	修業年限内 卒業者数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率
文 学 部	208 人	181 人	87.0%	12 人	5.8%	12 人	5.8%
人間科学部	343 人	307 人	89.5%	16 人	4.7%	20 人	5.8%
教 育 学 部	108 人	102 人	94.4%	3 人	2.8%	3 人	2.8%
大 学 計	659 人	590 人	89.5%	32 人	4.9%	34 人	5.2%

(6) 大学院教育

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指し、研究倫理教育と研究不正防止に取り組んだ。3 月 2 日に研究倫理研修会を開催し、本学の研究倫理審査の意図を指導教員及び大学院生に伝えた。

大学院の FD について、FD 委員会から大学院委員会の関連部会として、大学院 FD 部会を設置し、授業アンケート及び自己点検評価などを実施した。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、学長補佐(学生担当)、学長補佐(教務担当)、学長補佐(入試担当)および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月 1 回開催としている。2022 年度は 11 回開催し、次の事項を審議した。

- ① 2023 年度教育課程に関する事項
- ② 2022 年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③ 大学院入試に関する事項
- ④ 予算の編成等に関する事項
- ⑤ 大学院 FD 活動に関する事項

2023（令和 5）年 3 月 2 日に学位授与判定の会議を開催し、修士課程英語学専攻 1 名、国語国文学専攻 1 名、心理学専攻臨床心理学コース 4 名の最終試験を合格とし、修士（英語学）1 名、修士（国語国文学）1 名、修士（心理学）4 名の学位授与を承認した。

(7) 学生生活関係

(7) 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部 (8)】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、ラクロス部、アーチェリー部、剣道部、合気道部

【文化部 (7)】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部

【同好会 (2)】

写真同好会、軽音同好会

2022年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

関西学生ソフトテニスシングルス選手権	シングルス	2位 3位 ベスト8
関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	団体	優勝
神戸市民体育大会ソフトテニス競技	ダブルス	優勝 2位
関西学生選手権大会	ダブルス	3位 ベスト8
西日本学生ソフトテニス選手権大会	団体 ダブルス	3位 2位 3位
兵庫学生ソフトテニス優勝大会	ダブルス	優勝 2位 3位
全日本学生ソフトテニス大会	団体(大学対抗) シングルス	ベスト8 ベスト8 ベスト16
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦	団体(1部)	4位
兵庫学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝 2位 ベスト4 ベスト8
兵庫県選手権大会	ダブルス	優勝 ベスト4 ベスト8
関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス	2位 3位 ベスト8
全国ソフトテニス大会	ダブルス	ベスト8
関西学生選抜ソフトテニス選手権大会	シングルス	2位 3位

【テニス部】

関西学生春季テニストーナメント	シングルス	ベスト32
関西学生テニス選手権	シングルス	ベスト32

	ダブルス	ベスト 32
関西学生チャレンジテニストーナメント	シングルス	ベスト 16
	ダブルス	ベスト 16
関西学生地域テニストーナメント	ダブルス	ベスト 16
	ダブルス	ベスト 32
【なぎなた部】		
神戸市民体育大会 なぎなた競技会	演技の部	優勝 2位 3位
	団体の部	優勝 2位 3位
	個人の部	優勝 2位 3位
関西学生なぎなた選手権大会	演技競技(有段の部)	優勝 3位
	団体の部	優勝 3位
	個人試合(段外の部)	優勝
	(初段の部)	2位
	(二・三段の部)	2位
全日本学生なぎなた選手権大会	団体	3位
神戸市総合スポーツ大会なぎなた競技会	演技の部	優勝 2位 3位
	団体の部	優勝 2位 3位
	個人の部	優勝 2位 3位
関西学生なぎなた新人戦大会	演技競技(有段)	優勝 2位
	リズムなぎなた	優秀賞
	個人試合(有段)	3位
【卓球部】		
ひろしま国際オープン卓球選手権大会	団体	ベスト 8
	シングルス	ベスト 8
関西学生卓球新人大会	団体	優勝
	シングルス	優勝 2位
全国百万石オープン卓球大会	団体	優勝

	シングルス	優勝 3位 ベスト8
関西学生卓球春季リーグ戦	団体	1部2位
関西学生卓球選手権大会	シングルス	優勝 ベスト8
	ダブルス	優勝 2位
全日本大学総合卓球選手権大会	団体	優勝
全日本卓球選手権大会	団体	ベスト8
日本卓球リーグプレーオフ JTTL ファイナル4	1部リーグ年間総合	4位

(イ) 学生生活

(ア) 学内奨学金について

2022年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	19	・姉妹等奨学金	26
・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	25	・松蔭ファミリー入学金優遇制度	9
・夢・未来サポート特待生奨学金 50	9	・社会人特別編入学奨学金	4
・夢・未来サポートチャレンジ 50	4	・外国人留学生給付奨学金	2
・夢・未来サポート特待生奨学金 100	1	・大学院	8
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 2年目継続	6	・指定校特待生制度	189
・夢・未来サポートチャレンジ 50 2年目継続	1	・新型コロナウイルス感染症対策奨学金(A0)	44
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 3年目継続	2	・新型コロナウイルス感染症対策奨学金(推薦)	20
・夢・未来サポートチャレンジ 50 3年目継続	1	・セメスター留学奨学金	42
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 4年目継続	12	・1年留学奨学金	3
・夢・未来サポートチャレンジ 50 4年目継続	1		

(イ) 学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2022年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学		大学院	
奨学金名	人数	奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	248	日本学生支援機構 第1種	1
日本学生支援機構 第二種	330	日本学生支援機構 第2種	0
その他 (5件)	5		

B. 学外給付奨学金について

2022年度の学外給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 (旧制度)	2
日本学生支援機構 (修学支援新制度)	231
その他 (4件)	5

(ウ) 大学祭（松蔭祭）

2022年度は11月19日（土）と20日（日）にキャンパス開催を実施した。テーマは、本学が創立130周年を迎える記念すべき年に、3年ぶりの開催となる松蔭祭の完全復活を目指して「Full Revival on the 130th Anniversary」とした。

〔内容〕

模擬店：学生7団体、教職員1団体、学外3団体、学友会企画

展示：学生11団体、教職員1団体

野外ステージ：学内3団体、学外2団体、学友会企画、よしもとお笑いライブ、スペシャルゲスト

ファッション・ハウジングデザイン学科生によるファッションショー（11/19 テーマ：繋ぐ）

タレントスペシャルトークショー（11/20）

神戸市立博物館のおきしお夢はこぶ号、灘区との連携「灘★こども塾」（11/19）

ホームcomingデー（11/19 本学卒業生のつどい）

(エ) ハラスメント対策

1999年にセクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドラインを定め、さらに相談体制や調査機関を整備し、人権が尊重されるキャンパスをめざしている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを全教職員及び全学生に配布した。

(オ) 学生支援室

学生支援室では、身体障害、発達障害、精神障害、慢性疾患あるいは心理的問題がある学生の修学支援や不登校の学生の相談対応をしている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2022年度は約130名の障害や病気のある学生を支援した。

2022年5月には、相談・居場所・交流の拠点として「学生支援サロン」を開設し、学生支援の充実を図っているところである。

また新型コロナウイルス感染症関連の相談窓口として関係部署との連携により学生の学びの継続に配慮した支援を実施した。

(カ) 学生相談室

学生相談室には、公認心理師および臨床心理士の資格をもつカウンセラーが常駐し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、学生の家族や教職員からの、学生についての相談にも対応している。その他、新入生を対象とした精神的健康調査（UPI）を実施し、その結果からハイリスクと考えられる学生に対しては、手紙と面接にてフォローアップを行なっている。また、広報活動の一つとしてニューズレターを発行している。

2022年度学生相談室利用実績は以下の通りである。

相談件数（対面面接・電話面接）

2022年度のべ相談件数は1412件、相談者実人数141名（学生135名、教員1名、学生の家族5名）。2021年度は、のべ1308件、相談者実人数136名であり、相談件数、利用者実人数ともに増加した。理由として、コロナ禍が一定程度落ち着いたことにより授業形態が基本的に対面授業になり登校する学生の数が増えたこと、その一方で、コロナ禍をきっかけに対応を強化した電話面接実施により、長期休暇中の相談が増えたこと、などが挙げられる（電話面接件数477件）。

学生相談室実施のグループワーク

コロナ禍以前には、学生相談室では下記の3種類のグループワークを実施していたが、コロナ禍以降の2020年度ならびに2021年度はいずれも休止としていた。2022年度後期より、「ハロ

ークラブ」のみを再開した。

- ・ハロークラブ (毎月 1 回昼休みに、茶話会、クラフト、フラワーアレンジメントなどの会) : 10 月に「ハロウィンキャンドル作り」、11 月に「アロマスプレー作り」、12 月に「うさぎストラップ作り」、1 月に「セルフアロマハンドマッサージ」を実施した。尚、参加者はおのべ 21 名であった。(10 月 9 名、11 月 7 名、12 月 5 名、1 月 0 名)
- ・ほっこりカフェ (毎月 1 回昼休みに、過年度・復学・編入学の学生を対象に茶話会を実施。仲間を作る場所) : 2022 年度は引き続き休止。
- ・ランチクラブ (毎月 2 回昼休みに、面談室を開放し、自由に昼食をとってもらおう会) : 2022 年度は引き続き休止。

(キ) 保健室

2022 年度の対応者数は一部の授業を除き対面授業の再開により、昨年と比較し 1000 人以上増加となった。(対応者総数：延べ人数：5116 人)。

対応内容としてはコロナ関連を含む健康相談、メンタルヘルス関連の相談もあり、学生支援室、学生相談室と連携を取り対応した。

1) 健康診断受診：昨年と同様の感染対策を取り予定通り実施。

- ・大学での受診者数 : 総受診者数 1983 名 (受診率 97.5 %)
 在校生健康診断 受診者数 1535 名
 新入生健康診断 受診者数 448 名

※大学内での健康診断に因る新型コロナ感染症の発症は無かった。

- ・最終受診者数 : 総受診者数 2011 名 (未受診者 2 名 受診率 99.9%)

2) 健康診断内科診察時全学生の健康チェック

3) 入学前健康チェック

2022 年度入学生入学前面談 23 名

2 月・・・13 名 (内 zoom 面談：4 名)

3 月・・・10 名 (内 zoom 面談：4 名)

4) 学外実習参加前健康チェック(2004 名)

5) 留学生への問診、留学中の健康管理指導

新型コロナ感染症のため保健室での対象者全員の問診は中止。

ハイリスク学生 2 名には、本人と保護者を含め、国際交流センター、支援室、保健室との留学前面談を実施。

6) 寮へ訪問し寮生の健康相談と健康管理指導 (14 名問診)

7) 学生支援室と連携 ・随時「配慮願い申請者」への面談・就学困難学生への支援

8) 体組成計を利用した健康指導 (新型コロナ感染症のため中止)

9) 学外実習に参加する子ども発達学科、食物栄養学科への保健指導 (新型コロナ感染症のため中止)

10) その他

＝感染症の件について＝

*2022 年度のMRワクチン第 2 期接種率 96,4%

*新型コロナ感染症予防対策実施

*コロナ罹患者、濃厚接触者へ問診 (学生及び教職員)、施設消毒、報告 (manaba、サイボウズ)

(ク) 学生寮

2022年度は例年通り、6月18日午前中に本学保健室の看護師による健康チェックを実施し、午後より消防訓練を実施した。

(ケ) 松蔭 CP (チャレンジプログラム) について

2020年度から松蔭 GP を新たに松蔭 CP (チャレンジプログラム) としてリニューアルし実施する予定であったが、2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見合わせた。

(コ) キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業、学内巡回警備をはじめ防犯カメラによる防犯体制を敷き、学生の安全・安心に配慮した。また2022年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、入構する全学生と全教職員のマスク着用の徹底と検温の実施(発熱者に対しては保健室が対応)、各教室前や食堂入口等にアルコール消毒薬の設置、食堂の全テーブルにアクリル板の設置と黙食を促す掲示等必要な対応を行った。

(サ) 教育後援会について

教育後援会は、学生・保証人(父母等)・大学の三者間の連携を深めることでより一層の学生生活の充実を図り、家庭と大学が一体となって学生の成長を支援していこうという主旨で設立され14年目となる。役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう支援した。

実施した総会等主な行事は以下の通りである。

- ・総会 2022年5月28日(土)開催
- ・役員会・幹事会⇒第1回幹事会・役員会 2022年6月25日(土)開催
- 第2回幹事会・役員会 2022年10月1日(土)開催
- 第3回幹事会 2022年12月17日(土)開催
- 第3回役員会 2023年2月18日(土)開催
- ・保護者懇談会 [本学会場]2022年10月22日(土)開催
- [岡山会場]2022年10月29日(土)開催
- ・教育懇談会 2023年2月18日(土)開催

(8) 国際交流関係

① 語学研修・海外インターンシップについて(全学科全学年対象)

- (ア) 夏期語学研修: 新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (イ) 夏期海外インターンシップ(カナダ): 新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (ウ) 春期海外インターンシップ(中国): 新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (エ) 春期語学研修徳成女子大学校大学(韓国): 参加者20名
- (オ) 春期海外インターンシップ(ハワイ ホノルル): 参加者6名
- (カ) 春期語学研修アデレード大学(オーストラリア): 参加者19名

② セメスター留学について(英語学科2年生後期実施)

新型コロナウイルスの影響により2021年度に派遣不可であった英語学科3年生も同時に派遣参加: 3年生 18名、2年生 27名

③ 学科別海外研修について

(ア) 日本語日本文化学科(海外日本語教育実習)

派遣先: スアンスナンター・ラチャパット大学(タイ) 参加者: 5名

(イ) 海外日本語インターン

派遣先: スアンスナンター・ラチャパット大学(タイ) 3名

派遣先：ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）4名

(ウ) 教育学科（海外教育実習）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止

④ 海外日本語教育助手について

(ア) 北京外国語大学（中国）：日本語日本文化学科 2021 年度卒業 1 名

実習期間 2022 年 9 月～2023 年 6 月

*新型コロナウイルスの影響により派遣中止。日本より遠隔にて実施。

(イ) 閩江学院（中国）：日本語日本文化学科 2021 年度卒業 1 名

実習期間 2022 年 9 月～2023 年 6 月

*新型コロナウイルスの影響により派遣中止。日本より遠隔にて実施。

(ロ) アデレード大学（オーストラリア）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止

(エ) ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）：日本語日本文化学科 2021 年度卒業 1 名

実習期間 2022 年 9 月～2023 年 6 月 渡航し現地にて実施。

⑤ 受け入れ留学生

(ア) 私費留学生 2 名：都市生活学科 4 年生 1 名、教育学科 1 年生 2 名、英語学科 1 名

(イ) 交換留学生 5 名：閩江学院（中国）交換留学生 4 名

ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）交換留学生 1 名

(ロ) 短期受入れプログラム：新型コロナウイルスの影響により中止

(9) キャリアサポートセンター関係

① 学生の就職支援

2022 年度は昨年度・一昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により就職支援行事を対面・オンラインと臨機応変に対応して実施した。

【オンライン実施】

就職オリエンテーション、就職ガイダンス、各種講座（グループディスカッション講座、筆記試験対策講座、業界・企業研究講座、動画選考対策）、内定者座談会、学内業界研究会、キャリアカウンセリング（個別相談）

【対面実施】

Brush Up セミナー（自己 PR 作成、学チカ作成）、各種講座（グループ面接講座、グループディスカッション講座）、U ターン就職セミナー、エアライン講座、証明写真撮影会、なんでも相談室

※グループ面接・グループディスカッション講座はオンライン・対面どちらも実施した。

② 就職状況（2023 年 3 月 31 日現在）

求職者数	就職者数	就職率
512 人	510 人	99.6%

③ 主な就職先

キリンホールディングス(株)	社会保険診療報酬支払基金	宮野医療器(株)
山崎製パン(株)	日本生命保険相互会社	ANA 大阪空港(株)
三菱マテリアル(株)	明治安田生命保険相互会社	(株)JAL スカイ大阪
(株)ニトリ	マンパワーグループ(株)	(株)K スカイ
神戸市役所	パーソルキャリア(株)	ANA エアポートサービス(株)

神戸市教育委員会	(株)リクルートスタッフィング	東武トップツアーズ(株)
西宮市役所	(株)マイナビ	(株)JTB トランスフォーム
兵庫県庁	(株)神戸ポートピアホテル	パナソニックハウスソリューションズ(株)
伊丹市役所	リゾートトラスト(株)	ピアス(株)
(株)上組	ホテルグランヴィア大阪(株)	日本郵便(株)
(株)千石	ホテルモントレ(株)	(株)デンソーテン
アデレード大学	(株)ホテルニューアワジ	ダイワボウ情報システム(株)
(株)ラコステジャパン	兵庫日産自動車(株)	(株)J R 西日本 I T ソリューションズ
(株)ユニクロ	神戸トヨペット(株)	レバレジーズ(株)
青山商事(株)	(株)みなと銀行	(株)ユーハイム
(株)ユナイテッドアローズ	尼崎信用金庫	(株)エーデルワイス
(株)ジャヴァコーポレーション	(株)J スズキ	セキスイハウス(株)
(株)モンクレールジャパン	中国電力(株)	ウエルシア薬局(株)
(株)ジュン	(株)宝塚舞台	エームサービス(株)
(株)リンク・セオリー・ジャパン	(株)Nishiki Foods	(株)LEOC
ダイアナ(株)	(株)ジャックス	(株)スタジオアリス
(株)TSI ホールディングス	アルフレッサ(株)	東洋アルミニウム(株)

(10) 入試関係

(ア) 本学の入試制度

- ① 学校推薦型選抜（指定校入試）
- ② 松蔭高校生特別推薦選考
- ③ スポーツ優秀者推薦選考（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ④ 総合型選抜（AO入試）
- ⑤ 社会人特別入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑥ 帰国子女特別入学試験
- ⑦ 海外指定校特別推薦入学
- ⑧ 外国人留学生特別入学試験
- ⑨ 学校推薦型選抜前期A日程
- ⑩ 学校推薦型選抜前期B日程
- ⑪ 学校推薦型選抜後期日程
- ⑫ 一般選抜前期A日程
- ⑬ 一般選抜前期B日程
- ⑭ 一般選抜中期日程
- ⑮ 一般選抜後期日程
- ⑯ 大学入学共通テストを利用する選抜（共通テスト前期・中期・後期、共通テストプラス入試）

上記の入試制度により募集を行った結果、次のとおりの入試結果となり、大学は入学定員 570 名に対して入学者 243 名、定員充足率 43%であった。

また、すべての入学試験要項には、アドミッション・ポリシーを記載し、本学の学部・学科が求める入学生の資質を明確にしている。

2023 入試結果

大学		募集人員	志 願	受 験	合 格	入 学
	指定校入試	94	123	123	123	122
	松蔭高校生		30	27	27	21
	スポーツ I・II		11	11	11	10
	総合型選抜(AO入試)	55	46	46	45	44
	社会人 I・II	若干名	0	0	0	0
	帰国子女		0	0	0	0
	海外指定校		0	0	0	0
	外国人留学生		0	0	0	0
	学校推薦型選抜前期A	130	231	217	143	17
	学校推薦型選抜前期B		162	144	82	2
	学校推薦型選抜後期		56	52	29	4
総合型選抜 学校推薦型選抜 計		279	659	620	460	220
	一般選抜前期A	249	156	154	102	15
	一般選抜戦記B		84	76	45	3
	一般選抜中期		45	36	20	2
	一般選抜後期		18	15	5	0
	共通テスト前期	42	85	85	57	1
	共通テストプラス		49	48	20	0
	共通テスト中期		20	20	10	2
	共通テスト後期		2	2	2	0
一般選抜 共通テスト利用入試 計		291	459	436	261	23
合 計		570	1,118	1,056	721	243

(4) 広報関係

① 出版物の作成

大学案内、入試ガイド、クイックガイド、受験生向け広報誌「Plus S」（年3回発行）、合格おめでとう号、トピックスリーフレット、入試問題集等の作成

② 公式サイトを更新

公式ホームページの情報更新等メンテナンス

③ 受験生向けサイトの充実

アドミッション・ポリシーをはじめ大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報を随時更新、LINE 配信

④ 会場説明会

関西、北陸、中・四国などで開催される説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期となるものがあつたが17回実施。

⑤ 高校内説明会

主に、兵庫、大阪の高校内で開催される相談会・進学説明会は、91回の実施となった。

松蔭高等学校内での学科毎の説明会では、松蔭高校出身在学学生と学科教員が対面形式で実施。

⑥ オープンキャンパス等の実施

6月、7月、8月、9月、3月に計画していたオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響の為短縮開催で7回実施。Webでのオープンキャンパス・入試対策講座の実施。

⑦ DMの作成、発送

オープンキャンパス、会場説明会の案内用DM、チラシの作成及び発送

媒体紙の作成（新聞、雑誌）

業者企画の進学雑誌の作成、編集、校正

⑧ 高校訪問専従者による高校訪問と専任職員による高校訪問

高校訪問専従者による兵庫県と大阪府のほぼ全域と、岡山県、広島県と徳島県、鳥取県の一部；約380校への定期的な高校訪問ならびに高校訪問資料の作成

⑨ 交通広告の作成

駅・バス停の看板の作成及び意匠変更

車内ポスターの作成

⑩ その他WEB関連の作成

業者企画のWEBサイト上の本学情報の作成及び変更

⑪ 高校教員対象の説明会の実施

本学で開催。対面式とZoom式で開催。

⑫ キャンパスグッズの作成

⑬ 学生広報スタッフ研修会の実施

⑭ その他

その他各種団体からの広告要望への対応

各種団体からの取材要望への対応

(7) アドミッション・ポリシー

学生募集については、本学の学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき策定した入学試験制度により選考し、入学者を決定している。特に、総合型選抜の入学試験においては、志望学科のアドミッション・ポリシーと大学での学びの目標に関する内容を中心に口頭試問を行っている。

(11) 施設・設備関係

① 1号館4階系統、及び14号館1～3階の空調設備を更新した。

② 6号館641教室、3、14号館全室の照明をLED照明器具に更新した。

③ 12号館1～4階トイレを改修した。

④ 2号館211教室を学生支援室に改修した。

⑤ 4号館吹抜け部、外壁タイル浮き部分の赤外線調査を実施した。

⑥ 中央監視盤室 自火報受信機を更新した。

(12) 情報インフラ整備関係

① ホストコンピュータ ACOS（汎用機）の入れ替えを行った。

② 学内無線LAN接続に関わるネットワークの増設を行った。（3機）

③ 食物栄養学科の栄養教育実習室、栄養教育研究室、公衆栄養学研究室、臨床栄養実習室、給食経営管理実習室事務室のシステム環境を整備し、パソコン58台、プリンタ4台の更新を行った。

④ 学生貸出用ノートパソコン40台および保管庫の設置を行った。

⑤ 学生貸出用モバイルバッテリー50台及び充電器の設置を行った。

- ⑥ 教員貸出用ノートパソコン 9 台の更新を行った。
- ⑦ 事務系パソコン 5 台、プリンタ 2 台の更新を行った。
- ⑧ 勤怠管理システム（先ずは職員向け）の導入を行った。

(13)キリスト教センター関係

① ヌーンサービス：授業期間中の月曜日・火曜日

- ・誕生日感謝礼拝 6 回
4 月 28 日、6 月 16 日、7 月 21 日、10 月 13 日、11 月 17 日、1 月 19 日
- ・新年・成人祝福礼拝 1 月 10 日
- ・阪神淡路大震災記念礼拝 1 月 17 日

② 特別礼拝

- ・入学感謝礼拝 4 月 7 日
- ・イースター礼拝 5 月 26 日
- ・教育後援会総会開会礼拝 5 月 28 日
- ・ペンテコステ礼拝 6 月 23 日
- ・神戸松蔭タータンアートパネル祝福の祈り 7 月 12 日
- ・全校平和祈禱週間 7 月 10 日～7 月 16 日
- ・病者の祈り 7 月 26 日
- ・セメスター・1 年留学生のための壮行礼拝 8 月 4 日
- ・平和の折り鶴奉獻（広島）8 月 6 日
- ・逝去者記念礼拝 11 月 10 日
- ・松蔭祭のためのお祈り 11 月 15 日
- ・クリスマス礼拝 12 月 9 日
- ・松蔭女子学院新年礼拝 1 月 5 日
- ・管理栄養士国家試験のための礼拝 2 月 14 日

③ 式典

- ・学院創立 130 周年記念式典（神戸国際会館）9 月 17 日
- ・9 月学位記授与式 9 月 20 日

④ 募金活動

2022 年度 合計 ¥128,160

- ・クリスマス礼拝での会場献金および学内教職員献金 ¥108,660
- ・学生ボランティアカフェ年間売上額（1 回） ¥12,000
- ・学生ボランティアグループ T シャツ代 ¥7,500

⑤ ボランティア活動

- ・被災地支援活動および献金お届け（岡山） 3 月 16 日

⑥ 結婚式：1 組

⑦ 公開行事・イベント

- ・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 3 回
5 月 21 日、9 月 24 日、2 月 25 日
- ・国際平和デーカリヨン演奏 9 月 21 日
- ・クリスマスツリー点灯式 11 月 24 日

⑧ 会場提供：2 回

- ・松蔭中高入学感謝礼拝 4 月 16 日

(14) 図書館関係

① 図書館

〈所蔵数〉2023年3月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵書冊数(備品)	420,575冊	311,241冊	109,334冊
雑誌種類数	3,557種	2,724種	833種
A V 資料	12,771点		

〈2022(令和4)年度受入数〉	(合計)	(和書)	(洋書)
図書	3,337冊	3,189冊	148冊
雑誌	872種	790種	82種
A V 資料	36点		
消耗図書	397冊		

<2022(令和4)年度利用統計>	(合計)	(学生)	(教職員他)
入館者数	14,671人	12,270人	2,401人
図書貸出数(A V 資料含む)	16,524点	12,589点	3,935点
図書館ノートパソコン貸出数	62台	36台	26台
BYOD ノートパソコン貸出数	122台	122台	0台
BYOD 電源ケーブル貸出数	6台	5台	1台

<2022(令和4)年度遠隔サービス利用状況>	(対応数)
宅配貸出	6件
学外アクセス用データベースID発行	188件

開館日数 271日

相互利用 (他大学との協力)

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
133	336	54	45	0	3

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1年生に合計24回、322名に対して実施
- ・2年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンスを13回118名に対して実施

除籍本の有効活用

- ・「図書館古本市場」3回実施 参加者数：184名 再利用資料数：897冊
- ・公益財団法人 日本科学協会の「日中未来共創プロジェクト」を通じ中国の大学に533冊寄贈

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介
- ・学外ネットワークから契約オンライン資料へのアクセスを一元化するためのクラウド型プロキシ RemoteXs 運用、希望者にアクセス用 ID を発行
- ・授業の参考資料「シラバス図書リスト」「データベースリスト」「オンラインブックリスト」作成
- ・冊子資料の選書会を 2 回オンラインで開催 参加者数 21 名 選書冊数 287 冊
- ・電子書籍の試読選書イベントを 2 回実施
- ・図書館活用方法動画の作成
- ・メールおよび電話でのリファレンスサービス実施
- ・郵送による貸出サービス実施
- ・「読書ラリー」実施（目標：卒業までに 100 冊読もう）
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」及び「ブログ」を利用した「オンラインモノクル」実施
- ・神戸大学附属図書館学生チーム ULiCS（うりくす）と本学図書館サポーターのオンライン交流会を実施
- ・松蔭祭において図書館サポーターの展示を実施、「第 24 回図書館総合展_ONLINE_plus」の参加者に対してライブ配信を行い、「出展団体賞」のうち「日本事務器賞」を受賞
- ・「授業目的公衆送信」に関する手続き実施
- ・学術機関リポジトリ「KARASHI-DANE」の運用

② 学術研究委員会

- ・出版 機関誌 2 誌をオンラインで刊行（研究紀要 No.4、TALKS No.26）
- ・研修 「研究倫理研修」を 2022 年度着任教職員と大学院 1 年生を対象に「一般財団法人公正研究推進協会」のオンライン教材を利用して実施し、専任教員 4 名、大学院生 10 名、他合計 17 名が修了
ハゲタカジャーナル・学会に関する注意喚起を不正防止推進委員会と共同で実施

(15) 社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献に関する基本方針に沿った活動を下記のとおり実施した。

(※スペースの関係上、主な活動を記載)

- ① 自治体、企業、団体、教育機関、博物館等と連携することで、本学及びこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の活性化に貢献する。(社会貢献)

連携機関	実施状況
神戸市地域子育て支援事業（まつぼっくり）	実施（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）
神戸市企画調整局	大学都市 KOBE 発信プロジェクト ナレッジキャピタルグランフロント北館展示
神戸市立ファッション美術館	松蔭女子学院 130 周年記念展示、ジョルジュ・バ

	ルビエグッズの販売、FHD 学科卒業作品の展示
神戸市立博物館	大学祭において、おきしお夢はこぶ号展示
灘区まちづくり課	灘区チャレンジ助成事業（オープンハート点灯、灘区総合芸術祭・夢ナリエ・摩耶山ファミリーアドベンチャー参加）
神戸青年会議所	みなとまつりにて FHD 学科ファッションショーを実施

- ② 実践的教育研究活動を通して、地域における教育・研究の進展を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成する。（人材育成）

具体的な方策	実施内容
授業公開講座	49 講座開講し 17 講座 23 名受講
神戸松蔭公開講座	前期：YouTube 録画配信にて 7 講座実施 後期：対面にて 1 講座実施

- ③ 本学の教育研究活動の成果を地域社会及び産業界のニーズに結びつけることで、地域社会の活性化及び課題解決に貢献する。（産官学連携）

連携機関	実施状況
株式会社大丸松坂屋百貨店（大丸神戸店）	大丸インテリア館ミュージエールにおいて展示（日本語日本文化学科、FHD 学科）、大丸神戸店において神戸松蔭タータングッズの展示
JA 兵庫六甲農業協同組合（伊川谷花卉青年部）	都市生活学科花田教授によるビオラプロジェクトとして、近隣施設へビオラ配付
西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）	都市生活学科学生が瀬戸内カレッジに参加
神戸市中央卸売市場東部市場	食育工房とうぶキッチンの紹介動画作成、ロゴマークの作成
株式会社ユタックス	産学連携協定を締結、FHD 学科（教員・学生）による商品開発等の提案を実施
神戸市ファッション振興課、株式会社 JR 西日本コミュニケーションズ	JR 三ノ宮駅前 OHIROME MARKET に出展、展示及び FHD 学科ファッションショー実施

- ④ 教育委員会、教育機関、大学コンソーシアムひょうご神戸等との教育支援や連携教育、スポーツ活動支援等を通して、相互の教育活動の充実及び地域社会における教育環境の向上に取り組む。（高大連携、地域の教育機関等との連携）

連携機関	実施状況
兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会	高校生書道コンクール開催（日本語日本文化学科）
高大連携協定校 22 校	高大連携協定締結、16 校でのべ 39 回の講義を実施
松蔭高等学校	高大連携：大学特別講座実施
大学コンソーシアムひょうご神戸	企画運営、高大連携、教育連携、FD・SD、学生交流、キャリア各事業委員会に参画

(16) 言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) の発行
2. 研修員・研修生の受け入れ
3. 国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催
4. ウェブサイトによる情報の発信

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) の発行

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) No.26 を発行した。No.26 は 3 名の執筆者による 3 編の論文が掲載されている。2014 年からのアクセス解析によると、直近 10 年 (No.17-26) に出版されたもののうち、2014 年に出版された論文 1 編は 10000 ダウンロード越えている (2023 年 4 月 18 日時点。以下同じ)。また、この期間内で 6000 ダウンロードを超えるものが 4 編、4000 ダウンロードを超えるものも 2 編あり、本機関紙は言語学ならびに応用分野において学術的な資料としての機能を果たしているといえる。

2. 研修員・研修生の受け入れ

2022 年度は客員研究所員 5 名を受け入れた。客員研究所員は紀要 TALKS に投稿のほか、学会発表など活発な研究活動を行っている。

3. 国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催

2022 年度は、3 月に研究談話会が開催され、所員による発表が 3 件あった。この会には所員のみならず大学院生など外部からも参加者があり、盛会であった。また、所員たちの多くが科学研究費を獲得し、研究に取り組んでいる。

4. ウェブサイトによる情報発信

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) は 2019 年 (No.22) 以降冊子を廃止し、神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して全論文を閲覧できるようにしている。

(17) 外国語教育センター

2022 年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ① 全新生への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (4 月)、355 名
- ② TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施 (前期)
- ③ 事前登録、新生外国語科目変更等、履修登録関係全般の業務を行った。
- ④ 英語科目履修者 (英語学科を除く) への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (1 月)、282 名
一年間を通して学生の英語力の向上を測定すること、また学習に対するモチベーションを維持・向上させることを目的としている。
- ⑤ 前期後期とも、遠隔授業と対面授業がいつ実施されてもよいように、教材準備等、種々のコロナ影響の準備を行い、対応をした。
- ⑥ 安全のため、外国語教育センター科目担当者 (専任・非常勤) 連絡会を開催せず、年間を通して各言語毎に連絡網を作成し、密に連絡を取り合って manaba における教授法などの交流を行った。
- ⑦ 2022 年度承認に向けて再度カリキュラムの見直しをした。
英語選択科目、学科共通プログラム (フランス語、中国語、韓国語) のため、新設・廃止科目の検討・整備等。
- ⑧ 全学希望者向け TOEIC IP オンラインテストを導入した。
年 3 回実施 (6 月 22 日～29 日 27 名、11 月 2 日～9 日 28 名、1 月 17 日～24 日 13 名参加)

- ⑨ 英語学科・外国語教育センター両学科センター科目担当の新任英語ネイティブ非常勤講師の雇用に関する一切を執り行った。
- ⑩ 英語ネイティブ非常勤講師用ハンドブックを作成し配布した。
- ⑪ 外国語教育センター所員会議を Zoom および対面で開催した。
年7回。4月28日、6月9日、7月14日、10月6日、11月17日、12月8日、2月9日
- ⑫ English Island 開室
延べ利用者数 前期4月～7月 428名、後期9月～1月 346名
- ⑬ 外国語応援サロン開室
延べ利用者数 前期4月～7月 169名、後期9月～1月 187名
- ⑭ 英語スピーチコンテスト開催 12月15日 聴衆は対面で参加した。
- ⑮ 遠隔授業対応のため、CL2 教室を開放し、ヘルプデスクと連携して学生への便宜を図った。
- ⑯ TOEIC Bridge 監督説明会を実施した。3月30日 10:00～10:30。
- ⑰ 学内向け Web サイトの管理運営を行った。ホームページは、2023 年度新設を目標に完全リニューアルした。

(18) 情報教育センター

情報教育センターが 2021 年度に実施した主な事業は次の通りである。

- ① 情報教育・コンピュータ教室関係
 - 情報リテラシー I / II を BYOD 対象科目として開講し、最初の 2 回の講義で新入生が携行するパソコンに Microsoft 365 をインストールする等の BYOD 受講環境整備を行った
 - BYOD 導入初年度のため情報リテラシー I / II の再履修者については別クラスを編成した
 - BYOD 導入に伴い、Windows 教室の受講生卓上に電源コンセントを整備した
 - 受講環境に関する Web アンケートを、入学直後の新入生を対象に実施した
 - SA (Student Assistant) 教育
 - 9 名の SA が情報リテラシー I / II の授業補助を行った
 - 業務内容についてのオリエンテーションとスキルチェックを年度初めに実施した
 - コロナ禍で 2 年間開催できなかった SA 勉強会を再開し、SA のスキル向上を図った
 - 講義期間終了後に SA の活動を報告した
 - 年度末に SA を対象にアンケートを実施した
 - IT 機器ヘルプデスク (当センターの所管に変更) において、BYOD が導入された新入生を中心に 3,149 件の案件に対応した
- ② 学内ネットワーク関係
 - 2021 年度末に改修を行った認証系を用いて、本学とマイクロソフト社の契約の基に本学が発行するマイクロソフト組織アカウントと従来から発行している大学アカウントを一元管理する新しいアカウントの運用を、新入生対象に開始した
 - ファイアウォールを更新すると共にコアスイッチとの間を 10Gbps 利用の接続に増強した

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として活動している。

① 教育活動について

2022 年 3 月に本学大学院を修了した者 8 名のうち 7 名が、2022 年度の (公財) 日本臨床心理

士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率 87.5%、全国の合格率 64.8%）。

また、国家資格である第 5 回公認心理師試験は、2022 年 3 月に本学大学院を修了した者 8 名のうち 5 名が合格した（合格率 62.5%、全国の合格率 48.3%）。本学出身の受験者総数は 9 名で、全体の合格者は 6 名であった（合格率 66.7%）。

② 心理相談活動について

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、基本的な感染防止対策を講じつつ、可能な限り面接の頻度を減らすなどの対応を行った。本年度における新規の相談申し込みは 62 事例（昨年度 69 事例）であった。相談回数は合計 1109 回（昨年度 927 回）であった。

③ 研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第 17 号」を 2022 年 6 月に刊行した。教員および修了生による学術論文を 1 点、センター相談スタッフおよび修了生による研究論文を 10 点掲載した。研究報告誌は、全国の公認心理師および臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーヴァイザー、本学教員など）に送付した。

また、修了生を対象に年 1 回開催されていた「ブラッシュアップ研修会」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、2022 年度は開催を中止した。

④ 広報活動について

これまでは春季と秋季の 2 回にわたって無料相談会を実施していたが、2022 年度は新型コロナウイルス感染症が拡大する地域における社会貢献の一環として、昨年度に引き続き、初回面接料金を無料とした。無料で行った初回面接は 47 件であった。ただし、利用者の増加による感染拡大を防ぐため、積極的な広報活動は行わなかった。

(20) キャリア教育センター

キャリア教育センターは各学科・センター、特にキャリアサポートセンターと連携しながら、本学のキャリア教育の充実を目標に以下のような活動を実施し、学生一人ひとりが入学時（前）から卒業後も見据えて就職・進路に積極的かつ体系的に取り組めるように支援した。

① 入学時からの履修モデルとして「キャリアデザインプログラム」を提案し、キャリア系列科目として以下の 10 科目を開講している。

「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザイン研究」、「ホスピタリティ・マネジメント」、「エアライン・ホスピタリティ」、「インターンシップ」、「簿記・会計の基礎」、「簿記・会計の実践」、「企業・職種・業界の基礎知識」、「ファイナンシャル・プランニング」

② 全国大学実務教育協会が認定する資格取得者

「上級秘書士」は 58 人、「上級秘書士（国際秘書）」は 37 人（英語学科生のみ）が資格を取得した（いずれも 2020 年度以降入学生）。また、「ウェブデザイン実務士」は、8 名（2019 年度入学生）が取得した。

③ 民間企業との連携

- ・ ANA 総合研究所との提携し、「ホスピタリティ・マネジメント（4 クラス）」、「エアライン・ホスピタリティ（1 クラス）」を開講した。

また、客室乗務員やグランドスタッフをめざす学生の相談窓口として「エアライン相談室」を 10 回開設した。

- ・ (株)ベネッセ i-キャリア提供のアセスメントテスト「GPS-Academic」を実施した。思考力、姿勢・態度、経験という 3 つの観点で「問題を解決する力」を測定することを目的とし、1 年生と 3 年生に同様のテストを受検させて、2 年間で自身の成長を図ることが出来る内容となっている。

受検後のフォローアップガイダンスとして、1 年生は動画で共有、3 年生は 1221 教室で報告会を実施した。

④ 課外講座：資格・検定対策

(株)東京リーガルマインドに委託し「資格サポートオフィス」を設置している。2022年度の資格・検定対策講座の受講者延べ人数は79名であった。

受講申し込みがあった「MOS-Excel2019」、「MOS-Word2019」、「秘書検定2級」、「ファイナンシャル・プランニング検定3級」、「日商簿記検定3級」を対面で開講し、延べ51名が受講した。また、3年生対象「公務員試験対策講座」を21名が受講し、Web講座として開講した1・2年生対象「公務員対策早期スタート講座」は1年生2名、2年生5名が受講した。

(21) 教職支援センター

① 保育士資格および教育職員免許状（一種・専修）の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		特別支援学校	合計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種		
授与件数	72	70	29	1	38	1	41	24	276

② 就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭	
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他
	公1 私17	公一 私一	公2 私24	公一 私一	公一 私6	公一 私一	公12 私一	公6 私一	公2 私一	公1 私一	公一 私1	公一 私1
就職者数	特支教諭		施設職員									
	正規	その他	正規	その他								
	公1 私一	公2 私一	公一 私7	公一 私一								

③ 教員採用試験対策セミナーの実施

教員採用試験対策講座 16 講座を次のように実施した。ただし、教採対策合宿については COVID-19 の影響により中止した。

④ 教職支援センター年報

教職支援センター年報第7号を9月30日に発行した。

⑤ 教員免許状更新講習

「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律（令和4年法律第40号）」により、教員免許更新制が解消されたため、本学においても教員免許状更新講習を廃止した。

(22) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

① 全体目標

「学院創立130周年に向けた中期ビジョン」で示した「2022年度までの目標」では、まず全体目標として、「2019年度の入学定員を維持して全学年で定員前後の在学生数とすることで、2022年には在学生数2300名、教育の質の高さで評価される大学であることを目標とする。」とした。本学は2017年度入試から入学定員充足率が上昇し、2019年度、2020年度入試では定員以上の入学生を確保した。しかしながら、2021年度入試から一般選抜の受験者数が激

減して入学定員を満たすことができず、2022年度入試については学校推薦型選抜（前期日程）以降の受験生も減少した。2021年度入試以降、受験生の進学先決定の早期化が続いていることから、学校推薦型選抜（指定校入試）での学生募集を強化しているが、入学者数減少の流れを止めることはできず、2023年5月1日現在の在学学生数は1606名であり、中期ビジョンで示した全体目標にははるかに及ばない数字となった。

データに基づく大学運営については、2022年度に大学基準協会による大学評価を受けるため、2021年度に自己点検・評価を実施し自己点検評価報告書を作成した。その過程で、大学基礎データを作成するとともに、自己点検評価の根拠資料を揃えた。2022年度は書面評価を経て9月に評価委員会による実地調査を受けた。これらの過程によって本学の様々なデータを把握することができた。そして、大学評価については、大学基準協会より大学基準への適合認定を受けることができた。

IR室では、2021年度に引き続き卒業時アンケートの作成と集計を行い、集計結果を大学公式Webサイトで公開した。2022年度はさらに、学修成果の可視化に取り組んだ。まずは、ディプロマ・ポリシー達成度を、授業科目の履修とその成績評価から示す方法を検討した。カリキュラムマップで示した専門教育科目と学科ディプロマ・ポリシーの項目との対応に基づき、科目の成績によってディプロマ・ポリシーの達成度を図示する方法を検討し、試作した。これによって、学生に自身のディプロマ・ポリシーの達成度を分かりやすく示すことができると同時に、大学にとっても、このデータをもとに授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応を再検討することを可能にする。

データに基づく大学運営は進みつつあると言える。

② 学びの目標設定と学修成果の測定

教学マネジメント会議においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの点検を行い、それらポリシーに沿った科目設定、学修目標の設定を点検する体制は整備された。授業科目のシラバスに、ディプロマ・ポリシーと対応させた到達目標を明示することは全ての科目で実施されている。ルーブリックの作成とルーブリックに沿った成績評価はFD研修会の実施を経て始まった。

学修成果の測定については、在学中の学修記録として、授業以外に学内外で取り組んださまざまな活動や取得・受験した資格や検定の記録を入力するアクティビティ・ログと、一年間の活動を振り返り、今年一年間の頑張りとしりなかつた部分、また、来年度にむけた活動の計画などを入力する「学科の学び」ふりかえりレポートの作成を学生に求め、クラス担任がコメントすることを継続している。さらに上で述べたように、IR室が教務課と協力して、カリキュラム・マップに基づいたディプロマ・ポリシーの到達度をわかりやすく示す方法を検討し、試作した。

2022年度までの目標に示した授業科目の到達目標の設定は達成できた。しかし、学科における学修成果の測定については、道筋を示すことができたが達成には至っていない。

③ 学び続けることを可能にする力の養成

2020年3月の教育改革プロジェクト答申で打ち出した「課題を見出して解決策を提案できる力」と「情報技術を理解し、主体的に活用できる力」の養成に向けて、2022年度入学生から全学共通科目の系列区分と開講科目の改編を行った。全学共通科目にもゼミ形式の授業、PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）を取り入れた授業の配置によって、全学共通科目のアクティブ・ラーニング主体への転換が始まった。また、データ理解と統計系列科目

の展開によって、社会的に要請されている数理・データ教育を開始した。

全学共通科目と学科の導入教育科目の連携を一層進めて、読解力と文章作成力の向上を目指すことも 2022 年度までの目標として掲げたが、コロナ禍の中で、全学共通科目「伝わる文章」や学科の導入教育科目は、遠隔授業対応で手いっぱいとなり関係が進んだとは言えない。

一方、遠隔授業実施によって教育の ICT 化と学生の ICT 能力の向上は進んだ。2021 年度からすべての授業担当者に学習管理システム「松蔭 manaba」を学習支援のために使用すること求めている。2022 年度以降入学生からのノート PC 必携化 (BYOD : Bring Your Own Dvice) を決定し、導入教育科目を BYOD 対象科目とした。このような教育改革のための教育環境整備として、普通教室の ICT 機器の整備ならびにグループワークなどを行いやすい教室を増やしている。2021 年度は、2 号館にアクティブ・ラーニング教室を新設し、7 号館の演習室を改修した。7 号館では大教室と 1 階ロビーを、PC 使用を前提とした自習スペースへと改修した。また、BYOD に対応するため大学全体で教室の Wi-Fi 受信環境を改善し、学生の持ち込み PC の設定・操作を指導・相談できる態勢を構築した。また、Microsoft 365 を学生全員が学内・自宅どちらでも無償使用できるようにし、教育における Office ソフトの利用を一層進めている。

2022 年度までの目標に追加した、キャンパスでの PC 必携化に対応した教育方法の改善、施設設備の整備は進展した。

④ 学び合う体制の整備

2022 年度までの目標において、語学力・表現力を磨く授業の展開とサポート体制の充実を目指すとともに、授業及び授業外で学び合う仕組みを整備するとした。しかし、2020 年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大によって、スチューデント・アシスタント等のピア・サポート活動、ゼミなど授業でのグループワーク、授業外での地域連携活動などは停止あるいは大幅な縮小を余儀なくされた。2021 年度からは緊急事態宣言などによってしばしば活動中止となりながらも、少しずつ対面活動を再開していった。2022 年度になって、ゼミなど授業でのグループワークが本格的に再開された。授業外での活動については、神戸松蔭タータンのデザインを用いた衣服の制作や商品開発など活発に行われたこともあり、少しずつコロナ前の水準に戻りつつある。しかし、ピア・サポート活動の回復は容易には進んでいない。

⑤ 学生支援と学内活性化

学生支援については、2022 年度も、学生が新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触者となった場合や、新型コロナウイルス感染症の可能性のある症状となった場合の対応が重要な課題であった。2021 年度に構築した「対面授業欠席届」申請システムを、感染状況や国・地方自治体からの指示・要請に従いながら必要な修正を行って運用した。システムの運用においては、学生支援室・保健室による感染者・濃厚接触者への丁寧な対応・相談がたいへん重要な役割を果たした。学生支援については、コロナ対応に多大な時間と労力を割くこととなったが、危機対応においてその役割を十分に果たした。また、かねて計画していた学生支援のための専用スペース「学生応援サロン」を 2022 年度に保健室に隣接して設置した。支援を必要とする学生の居場所としても機能し始めている。

一方、2022 年度までの目標において、快適で活発なキャンパスづくりに向けて、クラブや同好会など学生たちの取り組みを活性化するとしていたが、新型コロナウイルス感染症のため行動制限をせざるを得なかった。2022 年度は 2021 年度に比べて行動制限をかなり緩め、コロナ前の状況にできるだけ近づける努力がなされ、大学祭は対面で実施することができた。しかし、学内活性化の取り組みである松蔭チャレンジ・プログラムを実施することはできず、学内

活性化は未だ回復途上である。そのような困難な状況下ではあったが、強化クラブは工夫しながら活動を継続し、コロナ前に劣らぬ成果をあげることができた。特に卓球部は、全日本大学総合卓球選手権大会団体の部で優勝し、はじめて大学日本一に輝いた。

⑥ キャンパス整備

2022年度までの目標において、現在のキャンパスの雰囲気を持続しつつ、部分的な増改築で現在の学生の利便性を向上するとし、2019年度よりキャンパス整備計画の検討を開始し2022年度までに整備するとしていた。しかし、2020年度からの新型コロナウイルス感染症拡大のため整備計画の検討は中断し、網戸設置など感染防止対策を優先して行なった。次いで、上記③で述べたように、アクティブ・ラーニングの進展と遠隔授業の実施などで進んだ教育のICT化に対応する教育施設整備を行った。2022年度は、照明のLEDやトイレ改修などにより学生の利便性向上を図った。

⑦ 地域貢献の推進と拠点の整備

地域貢献の推進は2022年度までの目標の一つであったが、2020年度に予定されていた多くの社会貢献・地域貢献活動が中止となった。2021年度と2022年度は、コロナ前の活動を手探りで再開していくこととなった。2022年度は、神戸市の地域子育て支援拠点事業による神戸松蔭子育て支援フリースペース「まつぼっくり」、神戸市企画調整局との連携によるナレッジキャピタルでの情報発信、灘区総合芸術祭への参加など神戸市と連携した活動を活発に行うことができた。伊丹市や多可町といった兵庫県下自治体との連携活動も実施した。神戸ファッション美術館では本学所蔵資料の展示やファッション・ハウジングデザイン学科の卒業作品展を行った。さらに、食物栄養学科による神戸市中央卸売市場東部市場や六甲道児童館との連携活動などを行い、都市生活学科は商品開発など産学連携活動を活発に行うなど、多くの学科が社会連携活動に取り組んだ。

また、2022年度からは兵庫県下の高校の探求学習への支援を活発に行っており、本学の教育・研究成果の地域への還元を進めている。

大学会館に代わる地域貢献拠点の設置計画については、学外新施設の設置よりも学内の地域連携体制の整備を進めている。

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
有形固定資産	16,906,720	16,567,917	16,332,669	16,401,807	15,073,431
特定資産	5,702,308	5,772,241	5,775,476	5,682,987	6,656,607
その他固定資産	159,939	95,158	88,203	89,205	99,662
固定資産計	22,768,966	22,435,315	22,196,348	22,173,999	21,829,700
現金預金	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413
その他流動資産	28,761	27,226	61,132	39,155	42,941
流動資産計	3,730,061	3,644,631	3,485,630	3,276,278	3,094,354
資産の部合計	26,499,027	26,079,946	25,681,978	25,450,277	24,924,054
長期借入金	280,560	227,700	204,930	182,160	159,390
退職給与引当金	668,103	692,377	676,392	688,944	685,505
その他固定負債	24,338	24,338	10,341	10,341	10,341
固定負債計	973,002	944,415	891,663	881,445	855,236
短期借入金	52,760	52,860	22,770	22,770	22,770
未払金	14,704	34,149	6,489	8,081	53,757
前受金	1,099,430	1,084,183	1,012,307	898,073	707,760
その他流動負債	200,440	166,586	218,950	230,670	267,632
流動負債計	1,367,334	1,337,778	1,260,516	1,159,594	1,051,920
負債の部合計	2,340,335	2,282,193	2,152,179	2,041,039	1,907,155
1号基本金	25,359,577	25,342,883	25,362,784	25,849,752	24,358,459
2号基本金	0	0	0	0	0
3号基本金	311,214	311,214	311,214	311,214	311,214
4号基本金	284,000	284,000	284,000	284,000	284,000
基本金計	25,954,791	25,938,097	25,957,998	26,444,967	24,953,673
繰越収支差額	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775
純資産の部合計	24,158,692	23,797,753	23,529,798	23,409,238	23,016,898
負債及び純資産の部合計	26,499,027	26,079,946	25,681,978	25,450,277	24,924,054

イ) 財務比率の経年比較

単位：千円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
基本金要組入額	125,521	△ 16,694	19,901	464,199	△ 1,491,294
基本金組入額	125,251	△ 16,694	19,901	486,969	△ 1,491,294

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
運用資産余裕比率	239.2%	231.2%	211.7%	213.1%	236.9%
流動比率	272.8%	272.4%	276.5%	282.5%	294.2%
純負債比率	8.8%	8.8%	8.4%	8.0%	7.7%
前受金保有率	336.7%	333.7%	338.3%	360.5%	431.1%
基本金比率	212.3%	24.4%	-21.1%	104.9%	100.0%
積立率	95.9%	92.3%	88.8%	82.8%	91.7%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	2,657,374	2,855,889	3,049,960	2,942,036	2,700,256
手数料収入	48,318	48,805	35,562	30,553	24,307
寄付金収入	15,255	12,081	7,982	18,661	23,674
補助金収入	491,515	484,801	682,629	696,585	673,780
資産売却収入	165,905	81,400	1,178,627	0	1,280,605
付随事業収入	5,741	1,055	145	242	155
受取利息・配当金収入	109,626	110,975	109,858	122,426	143,525
雑収入	170,286	78,770	251,795	159,974	117,731
借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,099,430	1,084,183	1,012,307	898,073	707,760
その他の収入	359,974	328,287	417,102	492,014	496,936
資金収入調整勘定	△ 999,981	△ 1,103,248	△ 1,121,051	△ 1,027,346	△ 913,507
前年度繰越支払資金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123
収入の部合計	7,703,145	7,684,298	9,242,321	7,757,716	8,492,346

科 目	H30/3	H31/3	R02/3	2021年度	2022年度
人件費支出	2,333,270	2,310,098	2,535,663	2,411,536	2,291,217
教育研究経費支出	649,907	683,142	966,700	832,221	863,947
管理経費支出	391,636	470,129	340,700	402,239	414,650
借入金等利息支出	5,129	4,415	3,701	3,176	2,842
借入金等返済支出	52,760	52,760	52,860	22,770	22,770
施設関係支出	68,890	54,631	238,079	429,393	99,087
設備関係支出	79,814	72,457	122,991	65,189	70,516
資産運用支出	164,901	106,754	1,283,668	93,177	1,424,349
その他の支出	286,109	358,243	295,584	281,078	316,077
資金支出調整勘定	△ 30,572	△ 45,735	△ 22,123	△ 20,185	△ 64,522
次年度繰越支払資金	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413
支出の部合計	7,703,145	7,684,298	9,242,321	7,757,716	8,492,346

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,376,322	3,473,144	4,000,837	3,831,578	3,530,389
教育活動資金支出計	3,374,814	3,463,368	3,843,063	3,645,996	3,569,814
差引	1,508	9,776	157,773	185,582	△ 39,425
調整勘定等	105,658	△ 30,400	△ 76,822	△ 93,691	△ 147,160
教育活動資金収支差額	107,166	△ 20,623	80,951	91,891	△ 186,585
施設整備活動による資金収支					
施設整備等活動活動資金収入計	12,167	89,657	1,133,737	16,472	940,145
施設整備等活動活動資金支出計	213,490	181,147	1,438,882	494,582	1,510,948
差引	△ 201,323	△ 91,491	△ 305,145	△ 478,110	△ 570,803
調整勘定等	△ 773	0	△ 25,802	6,352	5,151
施設整備等活動資金収支差額	△ 202,096	△ 91,491	△ 330,947	△ 471,758	△ 565,652
その他活動による資金収支					
その他の活動活動資金収入計	626,946	434,000	595,268	577,572	975,398
その他の活動活動資金支出計	416,109	430,297	513,880	385,080	408,871
差引	210,837	3,703	81,388	192,491	566,527
調整勘定等	5,690	24,515	△ 24,299	0	0
その他の活動資金収支差額	216,528	28,218	57,090	192,491	566,527
前年度繰越支払資金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123
翌年度繰越支払資金	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413

ウ) 財務比率の経年比較

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動資金収支差額比率	3.2%	-0.6%	2.0%	2.4%	-5.3%

(3) 事業活動収支計算書関連

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,657,374	2,855,889	3,049,960	2,942,036	2,700,256
	手数料	48,318	48,805	35,562	30,553	24,307
	寄付金	4,201	3,824	6,820	3,855	14,930
	補助金	490,402	484,801	656,554	694,919	673,780
	付随事業活動収入	5,741	1,055	145	242	155
	雑収入	170,286	79,503	251,795	160,071	117,731
	教育活動収入計	3,376,322	3,473,878	4,000,837	3,831,675	3,531,159
	事業活動支出の部					
	人件費	2,286,867	2,334,372	2,505,680	2,424,087	2,287,778
	教育研究経費	1,056,361	1,070,291	1,345,534	1,220,801	1,256,619
	管理経費	436,302	515,430	380,025	438,050	451,475
	徴収不能額等	488	0	405	0	0
	教育活動支出計	3,780,018	3,920,092	4,231,644	4,082,938	3,995,872
教育活動収支差額	△ 403,697	△ 446,214	△ 230,808	△ 251,263	△ 464,713	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	107,280	108,572	107,512	120,128	141,180
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	107,280	108,572	107,512	120,128	141,180
	事業活動支出の部					
	借入金等利息支出	5,129	4,415	3,701	3,176	2,842
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	5,129	4,415	3,701	3,176	2,842
教育活動外収支差額	102,151	104,157	103,811	116,952	138,338	
経常収支差額	△ 301,546	△ 342,057	△ 126,996	△ 134,311	△ 326,375	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	6,738	70,130	27,819	0	64,811
	その他特別収入	13,580	10,357	28,381	17,701	10,087
	特別外収入計	20,317	80,487	56,200	17,701	74,898
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	16,336	99,369	197,159	3,950	140,862
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	16,336	99,369	197,159	3,950	140,862
特別収支差額	3,981	△ 18,882	△ 140,959	13,751	△ 65,965	
基本金組入前当年度収支差額	△ 297,564	△ 360,939	△ 267,955	△ 120,560	△ 392,340	
基本金組入額合計	△ 125,251	0	△ 19,901	△ 486,969	△ 27,138	
当年度収支差額	△ 422,815	△ 360,939	△ 287,856	△ 607,529	△ 419,477	
前年度収支差額	△ 1,373,284	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	
基本金取崩額	0	16,694	0	0	1,518,431	
翌年度収支差額	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	

イ) 財務比率の経年比較

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費比率	65.6%	65.2%	61.0%	61.3%	62.3%
教育研究経費比率	30.3%	29.9%	32.8%	30.9%	34.2%
管理経費比率	12.5%	14.4%	9.3%	11.1%	12.3%
事業活動収支差額比率	-8.5%	-9.9%	-6.4%	-3.0%	-10.5%
学生生徒納付金比率	76.3%	79.7%	74.2%	74.4%	73.5%
経常収支差額比率	-8.7%	-9.5%	-3.1%	-3.4%	-8.9%

(4) その他有価証券の状況

単位：円

	当年度(令和5年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,483,666,584	2,929,954,148	446,287,564
（うち満期保有目的の債券）	(1,165,146,219)	(1,275,005,400)	(109,859,181)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	3,370,076,771	2,754,814,904	△ 615,261,867
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合 計	5,853,743,355	5,684,769,052	△ 168,974,303
（うち満期保有目的の債券）	(1,165,146,219)	(1,275,005,400)	(109,859,181)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,853,743,355		

(5) 借入金の状況

単位：円

種類	期末残高	利率	償還期限
[長期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	159,390,000	1.45%	令和12年9月15日
[短期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	22,770,000	1.45%	令和4年9月15日
合 計	182,160,000		

日本私学振興・共済事業団、兵庫県私学振興協会から、松蔭中学校・高等学校の耐震改修工事費用として借入を行っている。上記短期借入金は、長期借入金の1年以内返済分である。

(6) 学校債の状況

学校債の発行はない。

(7) 寄附金の状況

個人・団体等から以下のとおりの寄附金を受領した。 単位：円

	金額	寄付者・内容
一般寄付金	1,610,000	個人
特別寄付金	12,550,000	個人・任意団体等
施設・設備寄付金	9,514,000	個人
現物寄付金	1,342,751	図書・機器備品
合計	25,016,751	

(8) 補助金の状況

	金額	内容
経常費補助金	380,627,000	文部科学省
施設設備補助金	0	文部科学省
地方公共団体補助金	293,153,172	神戸市ほか
科学研究費補助金	19,305,008	文部科学省 採択課題32件
合計	693,085,180	

経常費補助金には、高等教育の修学支援に係る授業料減免等交付金 123,383,000 円を含む。

(9) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(10) 関連当事者との取引の状況

単

位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権所有割合	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
関係法人 (注)	社会福祉法人 松蔭ミカエル 福祉会	神戸市 東灘区	—	認定子ども 園の経営	社会福祉法 人であるこ とから議決権 の所有割合 は定められ ておりません	兼任1名	—	当法人所有 土地の使用 貸借契約	—	—	—

(11) 学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引はない。

2. 経営状況の分析と経営上の課題

[経営状況の分析]

- ・令和4年度の資金収入では、大学・中高共に入学者・在籍者数が減少したことで学生生徒等納付金収入が約242百万円前年比減収となった。(以下の計数は前年度との増減で示す)
- ・手数料収入は入学検定料の減少等により減収となったが、寄付金収入は学院創立130周年記念募金を中心に約5百万円増収となった。
- ・資産売却収入は松蔭大学会館売却と投資信託・ETFのリバランスにより1,281百万円増収となっているが、いずれも一過性のものである。
- ・受取利息・配当金は特定資産で追加投資1,000百万円を行ったことで約21百万円増収となる一方で、雑収入は主として退職金財団からの交付金減により減収となった。前受金収入は学生生徒数減少に約190百万円減収となった。
- ・資金支出では人件費支出が退職金支出減と教職員の年次構成変化により約120百万円減少した。教育研究経費支出はコロナ後の教育活動正常化に伴い約32百万円支出増となった。また、管理経費支出は松蔭大学会館売却に伴う費用負担が発生し約13百万円支出増となった。
- ・施設関係支出等の設備投資は空調設備個別化や水回りの改修等の教育環境改善に向けた設備投資が中心である。設備関係支出は、主にICT機器の入れ替えや教室設備の改修によるものである。資産運用支出は、前述した追加投資を施設拡充引当資産に繰り入れた支出である。
- ・事業活動収支では、特定資産リバランスに伴う有価証券売却益64百万円を計上した他、松蔭大学会館売却に伴う資産処分損等で約141百万円を計上しているが、本年度限りの特殊要因である。

[経営上の課題]

- ・事業活動収支計算書における教育活動収支差額・経常収支差額がマイナスとなっており、これらをプラス転換させていくことが最大の課題である。入学者数増加が収支改善の最大のポイントであることは論をまたないが、外部環境の変化に応じた経営改革も同時に進めていくことが求められる。
- ・そのためには、経営資源を学生生徒募集に資する教育プログラム開発や教育環境充実には重点的に配分しつつ、費用対効果を踏まえた経費コントロールを一層徹底していく必要がある。
- ・加えて、受取利息・配当金など収入増加や科研費等の競争的資金獲得に留まらず、私立大学等改革総合支援事業による補助金獲得や寄付金の継続的な積み上げといった取り組みにも注力していくことが課題である。

[今後の財務運営方針]

- ・持続的な発展に向けた財務基盤確立に向け以下の①～③を目標値として財務運営を行っていく。
 - (ア)事業活動収支差額比率1%以上
 - (イ)設備投資額(施設関係支出・機器備品支出)は前年度減価償却額比50%を上限
 - (ウ)教育研究比率30%以上
- ・上記目標の達成に向けては、入学者数の確保による収入増に並行して支出面で収入状況に合わせた経費コントロール強化も推進する。具体的には適正人員を見据えた人員計画策定による人件費水準の抑制、経常経費予算要求におけるシーリング導入によるコスト削減意識の定着、費用対効果を踏まえた設備投資の実施を徹底していく。
- ・永年に渡って財政規律を重視した運営を行ってきたことで、特定資産を中心に財務面のバッファは厚みがあるものの、女子大学を取り巻く経営環境が厳しさを増す中で教育環境充実に向けた投資と経費コントロールのバランスに留意した財務運営を基本方針とする。

3. 財産目録

科 目	年 度		令和 4 年 3 月		令和 5 年 3 月	
一. 基 本 財 産			15,441,486,466	円		14,057,570,594 円
1 . 土 地						
(1) 大 学 校 地	44,321	m ²	3,858,185,920	円	42,421	m ² 3,006,585,920 円
(2) 中 高 等 学 校 校 地	13,522	m ²	385,483,264	円	13,522	m ² 385,483,264 円
(3) 運 動 場	38,564	m ²	3,844,312,324	円	38,564	m ² 3,844,312,324 円
(4) そ の 他	33,772	m ²	50,529,495	円	33,772	m ² 50,529,495 円
計	130,179	m ²	8,138,511,003	円	128,280	m ² 7,286,911,003 円
2 . 建 物						
(1) 校 舎	47,869	m ²	3,341,659,694	円	44,256	m ² 2,932,308,105 円
(2) 図 書 館	4,154	m ²	210,017,259	円	4,154	m ² 195,216,085 円
(3) 体 育 館	7,832	m ²	734,286,125	円	7,832	m ² 692,137,586 円
(4) そ の 他	2,677	m ²	119,627,398	円	1,802	m ² 111,684,709 円
計	62,200	m ²	4,405,590,476	円	58,043	m ² 3,931,346,485 円
3 . 図 書	526,613	冊	2,577,676,795	円	527,028	冊 2,590,670,030 円
4 . 教 具 ・ 工 具 及 び 備 品	6,960	点	209,621,141	円	7,031	点 205,723,032 円
5 . そ の 他			110,087,051	円		42,920,044 円
二. 運 用 財 産			9,282,994,189	円		10,085,091,355 円
1 . 預 金 ・ 現 金			3,237,123,343	円		3,051,413,024 円
現金			6,727,578	円		7,078,388 円
普通預金			1,464,395,765	円		2,978,334,636 円
定期預金			1,766,000,000	円		66,000,000 円
2 . 積 立 金			5,690,901,997	円		6,685,037,721 円
3 . 不 動 産			276,469,297	円		276,469,297 円
4 . 未 収 入 金 ・ 前 払 金 ・ そ の 他			78,499,552	円		72,171,313 円
三. 負 債 額			2,041,038,848	円		1,907,155,262 円
1 . 固 定 負 債			881,444,722	円		855,235,616 円
(1) 日本私立学校振興・共済事業団			182,160,000	円		159,390,000 円
(2) 兵庫県私学振興協会			0	円		0 円
(3) 退 職 給 与 引 当 金			688,943,615	円		685,504,509 円
(4) 退 職 預 り 金			10,341,107	円		10,341,107 円
2 . 流 動 負 債			1,159,594,126	円		1,051,919,646 円
(1) 短 期 借 入 金			22,770,000	円		22,770,000 円
(2) 前 受 金			898,073,400	円		707,760,400 円
(3) 未 払 金			8,080,923	円		53,757,217 円
(4) 預 り 金			230,669,803	円		267,632,029 円
四. 基 本 財 産 + 運 用 財 産			24,724,480,655	円		24,142,661,949 円
五. 純 資 産 (四 - 三)			22,683,441,807	円		22,235,506,687 円
総負債(三) - 前受金						
総 資 産 (四)			4.6	%		5.0 %

4. 監事の監査報告書

監事監査報告書

令和5年5月18日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊 殿

学校法人 松蔭女子学院
監事 山口 純
監事 光葉 正博

私ども監事は、私立学校法第37条第3項に基づき、学校法人松蔭女子学院の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定及び執行又は理事の業務執行は適切であり、業務若しくは財産又は理事の業務に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

以上

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校教育関係

喫緊かつ重要な課題は、2020年度以来実施しているコース別の生徒募集（中学2ストリーム、高校3コース）、およびそれぞれの教育課程において、スクールモットー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび各年度学校運営方針を落とし込み、具体化させることである。この作業は、学校全体の教育力を向上させ、選ばれる私学として生徒募集活動にも有効に作用するであろう。次代を見据えた新しい学校づくり、私学としての更なる特色教育づくりの実現は学校存続の鍵である。

2. 中学校、高等学校の生徒募集計画

(1) 中学校の生徒募集

次年度入試については、DS入学者数は過去3年連続で微増しているので、これを継続させるとともに、GS入学者数20名超えを実現させるよう募集活動を行う。図書館の地域開放「小学生対象サタデーライブラリー」の広報を強化するとともに、将来の高校新コース（AAコース）への進学を見据えた広報活動を充実させる。近隣のインターナショナルスクール初等部や英会話塾との連携をはかり、「中学受験市場」を拡大し受験層を広げることが肝要である。

(2) 高等学校の生徒募集

次年度募集では募集数50名の充足を目指す。LSコースは各中学校への広報、AAコースはより幅広い種目（ゴルフ、テニス、宝塚音楽学校受験、俳優活動など）の各団体への広報強化を図る。高校GL一期生の教育活動をSNSで積極的に紹介して、魅力をアピールし、志願者増をねらう。また、高校入試においてもWEB出願制度を導入し、業務合理化をはかる。

3. 大学の新学部・新学科等の増設等

2019年度に教育学部教育学科を開設し、当初は大学全体として入学定員を充足していたが、近年は未充足となっている。これに伴い、現在新学科の増設や既存学科の改編を検討中である。大学院については2021年度に文学研究科言語学専攻（博士課程）の学生募集を停止した。なお、在籍する学生がゼロとなった時点で同専攻を廃止する予定である。

4. 大学の教育・研究関係

「大学の質の可視化を目的にアセスメントポリシーを定め、それに沿って学習成果を把握するための取り組みを行っているものの、学位授与方針とアセスメントポリシーの関連性が明確でなく、いずれの取り組みも学位授与方針との連関が不明瞭である。」との指摘を大学基準協会による認証評価において受けた。今後、学位授与方針の検証とともに、アセスメントポリシーの再構築を行う。

グループワークやチームで取り組む課題解決型の授業や活動をできるだけ設定することを目指していたが、2022年度は学生数減少に伴い、開講授業（クラス）数の削減を最優先に実施したため、課題解決型の授業を新設していない。2023-2027年度中期計画にもとづき、ゼミ形式やPBL型授業の授業数を増加させる。

学修ポートフォリオとして、本学の全学授業支援システム（manaba）内にキャリアコース「Shoinキセキ」をおき、学科の学びの振り返りのレポート（年2回）、アクティビティ・ログを全学年で作成し、同時に教員による指導を行い、学生の学びの発展をサポートしている。しかしながら、学生の参加率が十分でないため、参加率を高めるべく、運営の改善を行う。

5. 大学の学生募集計画

2023年度新入生の募集については243名（定員570名、定員充足率42.6%）の入学となり、2022年度入試以上に厳しい結果となった。今後の18歳人口の動向をみると、既に本格的な減少期に入り、年2万人以上のペースで減少が続くと予想される。また、受験生の進路行動をみても前年度以上に年内入試へのシフトが加速しており、こうした変化に対応することが求められる。2024年度入試については、定員確保に向けて学生募集戦略を抜本的に見直し、入学定員確保に向けて進めていく必要がある。

現状を鑑み、2024年度入試は、前年度に引き続き新たな入試制度を導入し、学生募集強化の方策を構築していくこととする。

具体的な方策は、以下のとおりである。

- (1)総合型選抜では、課題提出型、活動PR型、探究評価型の3方式に変更。
- (2)学校推薦型選抜に「調査書活用型」を新設。
- (3)学校推薦型選抜前期日程、一般選抜、大学入学共通テスト利用入試において、CEFR基準により、「外国語（英語）」の試験のみなし得点を利用可とする。
- (4)広報面については、公式サイト、SNSの活用や動画による本学の情報発信を引き続き推し進める。
- (5)高校訪問では、職員を中心に訪問高校数を増やし、進学ガイダンス等では、実施回数を増やします。それにより、高校教員および受験生や保護者との接触機会を増やしていく。
- (6)大学案内の他、学科リーフレットの制作を進め、大学全体ならびに学科・専修の魅力をアピールし、本学の知名度の向上ならびに志願者数増加を図る。

以上